

Microsoft Windows NT についての追加情報

この説明ファイルには、『Microsoft Windows NT セットアップ ガイド』やオンライン ヘルプで解説されていない情報、およびこれらの発行後の変更についての情報が記述されています。

その他の追加情報については、説明ファイル PRINTER.WRI および NETWORK.WRI を参照してください。PRINTER.WRI には、特定のプリンタについての情報など印刷関連の情報が記述されています。NETWORK.WRI には、ネットワーク アダプタ カードやネットワークの相互運用などネットワーク関連の情報が記述されています。

ライトを使ってこの文書を読むには

ライトのウィンドウ サイズを最大表示すると、文書が読みやすくなります。最大表示にするには、ライトのウィンドウの右上隅にある最大表示ボタンをクリックしてください。または、ライトのウィンドウの左上隅にあるコントロール メニューを開いて (Alt + Space キー)、[最大表示] コマンドを選んでください。

文書を移動させるには、PageUp キーまたは PageDown キーを押すか、ライトのウィンドウの右側にあるスクロール バーの上下のスクロール ボタンをクリックしてください。

この文書を印刷するには、[ファイル] メニューから [印刷] コマンドを選んでください。ライトの使い方のヘルプを参照するには、F1 キーを押してください。ほかの説明ファイルを参照するときは、[ファイル] メニューから [開く] コマンドを選んでください。

目次

このファイルには、次の項目についての追加情報があります。

0 Windows NT 3.51 日本語版の追加機能

- 0.1 かな漢字変換プログラム
- 0.2 日本語プロポーショナル TrueType フォント
- 0.3 外字エディタ
- 0.4 日本語フル テキスト検索
- 0.5 光磁気ディスク ドライブ
- 0.6 16 ビット FAX アプリケーション

1 Windows NT 3.51 Workstation および Server マニュアルに対する修正

2 バックアップ

- 2.1 バックアップで Sytos Plus テープを使用する際の注意

3 コントロール パネル

- 3.1 [サービス] での円記号の使用
- 3.2 プリンタの国別の標準形式の設定
- 3.3 サーバー サービスを一時停止しても Administrators や Server Operators の接続が可能
- 3.4 Unicode フォントの組み込みを必要とするキーボード配置

4 ファイル マネージャ

- 4.1 圧縮された NTFS ファイルは圧縮解除されてからアクセスされる
- 4.2 ファイルおよびディレクトリへのアクセス

- 4.3 コマンド プロンプトで使用されるファイルは OEM コード ページでなければならない
- 4.4 MS-DOS の UNDELETE の削除セトリ機能が Windows NT のメモリをブロックする
- 4.5 Windows NT での HPFS の使用
- 4.6 NTFS パーティションにおける短いファイル名生成の無効化
- 4.7 FAT ファイルを NTFS ファイル システムに変換する
- 5 プログラム マネージャ
 - 5.1 プログラム マネージャはデフォルトのシェルでなければならない
- 6 管理ツール
 - 6.1 監査ログへのコンピュータ名の追加
 - 6.2 Telnet の使用
- 7 その他のアプリケーション環境
 - 7.1 POSIX の使用
 - 7.2 目次ファイルの作成
 - 7.3 スタートアップ時のポップアップ メッセージの表示を抑制する
 - 7.4 RISC コンピュータでの浮動小数点計算の精度
 - 7.5 MS-DOS ベースのディスク ユーティリティの使用
 - 7.6 デフォルトの 16 ビット プリンタ ドライバの組み込みによる誤ったポップアップの表示
 - 7.7 OS/2 プート マネージャの削除
 - 7.8 Windows 3.1 ベースのアプリケーションに対するドライバのロード
 - 7.9 AUTOEXEC.NT
- 8 マルチメディア ドライバおよびアプリケーション
 - 8.1 Windows NT における API サポート
 - 8.2 RISC ベースのコンピュータ上で実行できない 16 ビット アプリケーション
- 9 レジストリの値の編集
 - 9.1 レジストリ エディタの起動
 - 9.2 レジストリ キーの移動
 - 9.3 レジストリの値の変更
 - 9.4 新しいレジストリの値の追加
- 10 Microsoft Windows NT メッセージ データベース
 - 10.1 メッセージ データベースのセットアップ、起動および終了
 - 10.2 Windows NT での メッセージ データベースの実行
- 11 オンライン ブックの組み込み
 - 11.1 Windows NT 3.51 の下での Windows 95 ヘルプ機能
 - 11.2 ヘルプの使い方
- 12 メモ帳
- 13 特定のコンピュータ システムに関する注意事項
 - 13.1 Intel Pentium プロセッサの浮動小数点エラーに関するソフトウェア アップデート
 - 13.2 ACER AcerFrame 3000 MP
 - 13.3 Ambra ビデオ ディスプレイ
 - 13.4 AST EISA システムのメモリ
 - 13.5 AST Premmia
 - 13.6 DELL
 - 13.7 Digital Alpha システムのファームウェア アップグレード
 - 13.8 DFI 9800T
 - 13.9 Gateway 2000 および Micronics Gemini 486 VESA ローカル バス マザーボード
 - 13.10 Gateway Nomad ノートブックおよび TI Travelmate ノートブック
 - 13.11 IBM PS/2

- 13.12 IBM PS/2 モデル 53、76、76i、77、および 77i、IBM ThinkPad モデル 700c および 720c
- 13.13 IBM ThinkPad ポータブル コンピュータ
- 13.14 Future Domain SCSI を内蔵する IBM ThinkPad Docking Station
- 13.15 Olivetti LSX5030
- 13.16 モノクロの Toshiba T4400SX
- 13.17 EISA バスを搭載するコンピュータでのメモリ構成の変更
- 14 ビデオ ディスプレイ ドライバおよびアダプタ (x86 ベースのコンピュータ)
 - 14.1 構成のテスト
 - 14.2 Windows NT 3.51 ビデオ ドライバへの更新
 - 14.3 Matrox MGA または Compaq QVision 2000 ディスプレイ アダプタの使用
 - 14.4 S3 864 チップを使用するビデオ カード間のアドレス競合
 - 14.5 ビデオ ディスプレイ構成のトラブルシューティング
 - 14.6 Cirrus および ET4000
 - 14.7 S3 VGA
 - 14.8 VESA VGA
 - 14.9 ATI ドライバに関する注意事項
 - 14.10 Weitek P9000 ベースのビデオ カード
 - 14.11 ウィンドウとフルスクリーンの切り替え
- 15 ディスク ドライブに関する情報
 - 15.1 認識されないディスク
 - 15.2 BIOS を介して作成されたボリューム セット
 - 15.3 ディスク コントローラおよびドライブのキャッシュ
 - 15.4 シリンダ以上の ESDI ディスク ドライブへの Windows NT の組み込み
 - 15.5 Data Technology Corp. (DTC) モデル 6282-24
 - 15.6 DTC モデル 6290-24
 - 15.7 DTC モデル 6290 SEZ (デュアル SCSI/ESDI コントローラ)
 - 15.8 DTC モデル 6295-24
 - 15.9 Adaptec モデル 2322D
 - 15.10 UltraStor (PROM のバージョンが nnnnn-009 未満)
 - 15.11 UltraStor (PROM のバージョンが nnnnn-009 以上)
- 16 SCSI デバイス
 - 16.1 Adaptec の BIOS 検出
 - 16.2 Windows ドライバ ライブラリのアダプタ ドライバによる Windows NT の組み込み
 - 16.3 SCSI アダプタの置き換え
 - 16.4 特定の SCSI デバイスに関する注意事項
 - 16.5 Adaptec
 - 16.6 Adaptec 1510、1520、および 1522
 - 16.7 Adaptec AHA-1542C および Denon DRD-253
 - 16.8 Adaptec 1542x
 - 16.9 Adaptec 154x
 - 16.10 Adaptec 1640 Micro Channel アダプタ
 - 16.11 Adaptec AHA164x
 - 16.12 Adaptec 1740
 - 16.13 Adaptec 2940
 - 16.14 Buslogic
 - 16.15 COMPAQ Smart SCSI Array
 - 16.16 Dell Drive Array

- 16.17 Future Domain 8xx
- 16.18 PS/2 SCSI アダプタ
- 16.19 Maynard SCSI アダプタ
- 16.20 Mylex DCE376 および Tangent 48933 USA
- 16.21 NEC Intersect CD-ROM
- 16.22 Plextor (Texel) DM-5024 CD-ROM
- 16.23 ProAudio Spectrum 16 TMV1
- 16.24 PCMCIA カード
- 16.25 PCMCIA イベント ログ エラー
- 16.26 PCMCIA カードを有効にする
- 16.27 PCMCIA デバイスの使用
- 16.28 Trantor
- 16.29 UltraStor SCSI コントローラ
- 16.30 AT/API IDE デバイス
- 17 テープ デバイス
 - 17.1 DEC TZ86、TZ87、DLT2000 ベースのテープ ドライブ
 - 17.2 QIC 40/80 テープ デバイス
- 18 非 SCSI CD-ROM ドライブ
 - 18.1 Creative Labs CD-ROM ドライブ
 - 18.2 Mitsumi CD-ROM ドライブ
 - 18.3 Panasonic CD-ROM ドライブ
 - 18.4 Sony 独自の CD-ROM ドライブ
- 19 交換可能メディア
 - 19.1 フロプティカル ドライブが存在する場合の CD-ROM からの組み込み
 - 19.2 PCMCIA カード
- 20 マルチポート シリアル アダプタ
- 21 マウスおよびその他のポインティング デバイス
 - 21.1 シリアル マウス (SERMOUSE.SYS ドライバ)
 - 21.2 Microsoft InPort バス マウス (INPORT.SYS ドライバ)
 - 21.3 バス マウス (BUSMOUSE.SYS ドライバ)
 - 21.4 Mouse Port または PS/2 マウス (I8042PRT.SYS ドライバ)
 - 21.5 複数のポインティング デバイスおよびその他のポインティング デバイスのサポート
- 22 サウンド
 - 22.1 Sound Blaster
 - 22.2 Pro Audio Spectrum-16
 - 22.3 Windows Sound System
 - 22.4 RISC ベースのコンピュータ上でのサウンド
- 23 ビデオ キャプチャ
- 24 アプリケーションに関する注意事項
 - 24.1 圧縮ファイルを Windows NT 3.5 で表示させる場合
 - 24.2 Windows NT で作成したファイルを Windows 3.x で開く場合
 - 24.3 シリアル通信アプリケーションの実行
 - 24.4 MS-DOS ベースのリモート制御アプリケーションの実行
 - 24.5 アプリケーション独自のマウス ポインタ
 - 24.6 MS-DOS ベースのマルチメディア アプリケーションの実行
 - 24.7 RISC ベースのコンピュータ上でのアプリケーション サポートの制限
 - 24.8 Microsoft Word for Windows
 - 24.9 Windows 3.1 および MS-DOS ベースの英語版アプリケーションについての情報

さまざまなマルチメディア アプリケーション
Intel Indeo 圧縮ムービーを連続して何千本も再生するアプリケーション
Adobe Photoshop
After Dark
Aldus PageMaker
Aldus Persuasion
AutoCAD Release 11 286
AutoCAD Release 12
Autodesk 3D Studio, Release 2
Autodesk Generic CADD 6.0
Borland C++ 4.0
Borland Pascal with Objects 7.0
Borland Turbo Pascal for Windows
Broderbund KidPix for Windows 1.0
Broderbund Grandma and Me
Broderbund Myst
CA SuperProject
cc:Mail
Chessmaster 3000
Commute
CompuServe Information Manager (CIM)
Copydoubler (Macintosh アプリケーション)
Corel Draw 4.0
Corel Ventura 4.2
Eicon Access
Extra! for Windows
F-19 Stealth Fighter
Fastback 6.0 for DOS
FileMaker Pro
Filewalk
Intergraph G91 ディスプレイ アダプタ
Lap-Link V
LHX Attack Chopper
Lotus 1-2-3 version 2.4 以上
Lotus Agenda
Lotus Ami Pro 3.1
Lotus Notes
Lotus Organizer
Lotus ScreenCam
Lotus SmartSuite
Micrografx Windows Draw 3.0
Microsoft C 7.00
Microsoft Dinosaurs
Microsoft Encarta 1994
Microsoft Encarta 95
Microsoft Excel version 5.0
Microsoft Entertainment Pack, Idlewild
Microsoft Magic School Bus Explores The Solar System

Microsoft PowerPoint
Microsoft PowerPoint 4 Presentations with Embedded Video Clips or Midi Sequences
Microsoft Word for Windows 6.0a
Microsoft Word, version 5.5
Microsoft Works 3.0
Multiplan 4.2 for DOS
Norton Utilities 6.01
ORACLE DBMS for DOS
OzCIS
PackRat 5.011 for Windows
pcANYWHERE III
Photoshop
ProComm 2.0
Quantum Gate
Quattro Pro for Windows 1.0
Quattro Pro 6.0
Quicken 4.0
Rumba
7th Guest
SimAnt
Smartcom Windows Communication Software 1.0A
Software Toolworks Multimedia Encyclopedia
SQLWindows 4.0/4.1 for Windows
SuperPrint 2.2
US Atlas 3.1.0, The Software Toolworks
Ventura Publisher
Delrina WinFax Pro 2.0
WordPerfect Windows 6.0a

0 Windows NT 3.51 日本語版の追加機能

Windows NT 3.51 日本語版では、Windows 95 日本語版との互換性を保つための機能が追加されています。また、以前のバージョンに対して寄せられた要望を基に、既存機能の仕様変更や、日本におけるハードウェア サポート拡張のための機能追加などが行われています。ここでは、Windows NT 3.51 日本語版で独自に追加されている新規機能について説明します。

0.1 かな漢字変換プログラム

MSIME95

本リリースから、デフォルトのかな漢字変換プログラムが Windows 95 日本語版と互換の MSIME95 になりました。以前のバージョンの Windows NT 日本語版からアップグレードした場合にも、デフォルトのかな漢字変換プログラムは MSIME95 に変更されます。MSIME95 の使用方法についてはオンライン ヘルプを参照してください。

MSIME32

以前のバージョンで提供されていた MSIME32 は、CD-ROM の \SUPPORT\MSIME32 ディレクトリに、セットアップ プログラムとともに提供されています。MSIME32 を追加して使用したい方は、このセットアップ プログラムを使用してシステムに追加してください。

キーボードの言語とレイアウト、かな漢字変換プログラムの設定

Windows 95 日本語版と同様に、コントロール パネルの [キーボード] オプションでキーボードの言語とレイアウトの変更、およびかな漢字変換プログラムの設定を行うことができます。

かな漢字変換プログラムの設定を変更するには [キーボードのプロパティ] ダイアログ ボックスの [言語] を選択し、設定を変更したい言語とレイアウトを選択して [プロパティ] ボタンをクリックします。新しいかな漢字変換プログラムを組み込むには、かな漢字変換プログラムのインストール プログラムが必要です。

コントロール パネルの [キーボード] オプションの機能追加にともない、[各国対応] オプションから [言語] と [キーボードの種類] ボックスが削除されました。また、[日本語入力システム] オプションがコントロール パネルから削除されました。

0.2 日本語プロポーショナル TrueType フォント

Windows 95 日本語版で提供される新しい日本語プロポーショナル TrueType フォントが Windows NT 3.51 日本語版でもサポートされます。以下の書体が追加されました。

- * MS Pゴシック
- * MS P明朝
- * @MS Pゴシック
- * @MS P明朝

0.3 外字エディタ

Windows 95 日本語版で提供される新しい外字エディタと同等の機能を持った TrueType 外字エディタ (EUDCEDIT.EXE) が Windows NT 3.51 日本語版でも提供されます。

従来のユーザー フォントの外字は TrueType 外字エディタを使用して TrueType 外字フォント ファイルに変換することが可能です。

外字エディタの使用方法については外字エディタのオンライン ヘルプを参照してください。

0.4 日本語フル テキスト検索

Windows 95 英語版で提供されているオンライン ヘルプの新しいフル テキスト検索機能が、Windows NT 3.51 日本語版でもサポートされています。Windows NT 3.5 日本語版で提供されていた以前のフル テキスト検索機能とは動作が異なります。フル テキスト検索機能について詳細は、オンライン ヘルプを参照してください。

0.5 光磁気ディスク ドライブ

Windows NT 3.51 日本語版では 128 MB および 230 MB のスーパーフロッピー フォーマットの光磁気ディスク (MO) がサポートされます。

MO ドライブに挿入されているメディアを自動的に判別して動作しますので、スーパーフロッピー フォーマットの MO ディスクを取り出した後に、ハード ディスク フォーマットの MO ディスクを挿入して使用することも可能です。スーパーフロッピー フォーマットのメディアをドライブに挿入した場合、ディスク アドミニストレータを使用して割り当てるドライブ文字を変更することができます。

以前のバージョンでサポートされていたように、ハード ディスク フォーマットで MO ディスクを構成することも可能です。ハード ディスク フォーマットの場合、ファイル システムとして FAT と NTFS が使用できます。FAT の場合、Windows NT 実行中にメディアを交換することができます。NTFS の場合、メディアの交換は Windows NT のシャットダウン後に行う必要があります。

なお、MO ディスクをスーパーフロッピー フォーマットで構成した場合、メディアのフォーマットには時間がかかります。

注意: PC-9800 シリーズでは MO ディスクのハード ディスク フォーマットはサポートされていません。

MO ドライブのセットアップ

1. MO ドライブをコンピュータの SCSI バスに接続し、電源を入れ、Windows NT 3.51 を起動します。この時点で MO のメディアが挿入されている必要はありません。
2. コントロール パネルの [デバイス] オプションを開き、[Scsimo] を選択し、[スタートアップ] ボタンをクリックします。
3. スタートアップの種類を [ブート] に設定して [OK] ボタンをクリックし、Windows NT を再起動します。
4. これで MO デバイスの準備ができました。この時点では MO ドライブにドライブ文字が割り当てられていないことに注意してください。

注: MO デバイスをコンピュータに接続した後で、Windows NT 3.51 を組み込んだ場合、MO ドライブには自動的にドライブ文字が割り当てられます。そのコンピュータに CD-ROM も接続されている場合、MO ドライブの方が優先順位が高いために CD-ROM ドライブより前のドライブ文字が割り当てられます。上記手順によって Scsimo を開始すると、CD-ROM ドライブのドライブ文字がずれ、また MO ドライブに割り当てることができる文字も、最初に割り当てられたものとは変わってしまうので、注意が必要です。

MO ドライブへのドライブ文字の割り当て

1. 管理者アカウントでログオンし、[管理ツール] グループの [ディスク アドミニストレータ] を実行します。[ツール] メニューの [光磁気ディスク ドライブ文字] を選択します。
2. MO デバイスに割り当てるドライブ文字を選択し、[変更] ボタンをクリックします。

スーパーフロッピー形式での MO メディアのフォーマット

Scsimo ドライバがロードされている状態で MO メディアをファイル マネージャまたは format コマンドでフォーマットすると、メディアはスーパーフロッピー形式でフォーマットされます。

ハード ディスク形式の MO メディアをスーパーフロッピー形式でフォーマットするには、いったん MO メディアを「raw」(未フォーマット) 状態にし、SCSIMO.SYS を組み込み、Windows NT を再起動します。

ハード ディスク形式での MO メディアのフォーマット

1. [コントロール パネル] の [デバイス] オプションを開き、[Scsimo] を選択し、[スタートアップ] ボタンをクリックします。
2. スタートアップの種類を [無効] にし、[OK] ボタンをクリックして、Windows NT を再起動します。これで MO デバイスはコンピュータ に装着された交換可能ハード ディスクの 1 つとして認識されるようになります。
3. MO ディスクを挿入し、[ディスク アドミニストレータ] を実行します。Windows NT にメディアを認識させるため「署名」の書き込みが必要だとシステムに促された場合、[OK] ボタンをクリックしてください。
4. MO メディアをハード ディスク形式でフォーマットするには、[ディスク アドミニストレータ] で MO メディア上にパーティションを作成し、新しいパーティションをフォーマットします。

MO メディアの物理フォーマット

[ディスク アドミニストレータ] の [ツール] メニューに [光磁気ディスクの物理フォーマット] コマンドが追加されました。Scsimo ドライバが開始されている場合、このコマンドを使用して、MO メディアを物理フォーマットし、「raw」(未フォーマット) 状態にすることが可能です。物理フォーマットしたメディアを再度使用するには、Format コマンドまたは [ファイル マネージャ] を使用してください。

MO ドライブの取り外し

1. MO ドライブをコンピュータから取り外した場合、「ハード ディスク形式での MO メディアのフォーマット」で紹介した方法で、Scsimo ドライバを無効にします。
2. システムを再起動した後、[ディスク アドミニストレータ] を実行して、ドライブ文字の変更をシステムに保存されている情報に反映します。
上記の操作を行わないと、ネットワークで共有されているディレクトリにドライブ文字を割り当てて接続する際、MO ドライブで使用されていたドライブ文字を使用することができません。

0.6 16 ビット FAX アプリケーション

動作が確認されている 16 ビット FAX アプリケーション

Windows NT 3.51 日本語版では、以下に列挙されているものを含めていくつかの 16 ビット Windows 用の FAX ソフトウェアを自動認識します。アプリケーションのインストール時に 16 ビット FAX プリンタドライバがシステムに組み込まれ、Windows アプリケーションから使用できます。自動認識される 16 ビットファックスアプリケーションのうち、以下のアプリケーションが本リリースで動作することが確認されています。

まいと〜く Fax (InterCom)
まいと〜く Fax 2 (InterCom)
STARFAX 4.0 for Windows (Megasoft)
信乃助 Pro (COMUSE)
Do Re Mi FAX (SOFNEC)
EasyFax for Windows Ver.2.0 (AISOFT)
Delrina WinFaxPRO 3.0 (Something Good)

16 ビット FAX アプリケーションに対する注意事項

16 ビット FAX アプリケーションを同時に複数実行することはできません。これはモデムを複数用意した場合も同様です。そのため、以下のような操作は実行できません。

- * Microsoft Word から文書を FAX 送信中に、[メモ帳] を起動して FAX 送信を行う。
- * 複数の FAX アプリケーションを組み込んで、同時に FAX 送信を行う。

STARFAX for Windows をシステムに組み込むと、[スタートアップ] グループに [通信モニタ] プログラムが登録されます。FAX 送信を行う際は、この [通信モニタ] を [スタートアップ] グループから削除し、ログオンし直してから送信を行ってください。

1 Windows NT 3.51 Workstation および Server マニュアルに対する修正

Microsoft Windows NT Server 『コンセプト アンド プランニング ガイド』の修正

『コンセプト アンド プランニング ガイド』の 42 ページの最後には、「(ただし、異なるドメインに既存のバックアップ ドメイン コントローラが存在する場合、そのバックアップ ドメイン コントローラをそのドメインから別のドメインへ移動することはできません)」と記述されています。

これは誤りです。バックアップ ドメイン コントローラを移動するには、Windows NT Server 3.51 を組み込みなおさなければなりません。セットアップの詳細については、『セットアップ ガイド』を参照してください。

Microsoft Windows NT Server 『TCP/IP』の修正

「第 5 章 WINS サーバーの組み込みと構成」の 124 ページの箇条書きの 4 つめに、「ルーターの反対側にローカル ドメイン コントローラがなくても、Windows NT Server ネットワーク上のクライアント (Windows NT および LAN Manager 2.x を含む) が、ルーターの遠端にあるドメインを参照することができます。」と記述されています。

これは誤りです。このことは、Windows NT ではそのとおりですが、LAN Manager 2.x では正しくありません。LAN Manager 2.x のクライアントは、ルーター間のサブネットにわたる

ドメインを参照することはできません。LAN Manager が WINS を使用するのには LMHOSTS ファイルを置き換えて名前を解決するためであり、ドメインを参照するためではありません。

Microsoft Windows NT Server『TCP/IP』の修正

『TCP/IP』の第 1 章の 14 ページに、「匿名 FTP を使って Windows Sockets 仕様を入手するには」という項があります。この項の正しい手順は、次のとおりです。

1. 現在の作業ディレクトリに書き込みアクセス権を設定してあることを確認します。
2. ftp を起動し、ftp.microsoft.com (または 198.105.232.1) に接続します。
3. anonymous としてログオンします。
4. password として電子メールのアドレスを入力します。
5. cd \bussys\winsock\spec11 と入力し、Enter キーを押します。

2 バックアップ

2.1 バックアップで Sytos Plus テープを使用する際の注意

Windows NT バックアップ プログラムで Sytos Plus テープを使用すると、次のような状況が生じることがあります。

- * 1 回のバックアップ セッションで 2 本の Sytos Plus テープにまたがってファイルのバックアップが行われ、2 本目のテープにファイルが完全に収まる場合、Sytos Plus テープからファイルを復元するときに問題が発生することがあります。このような場合には、次に示す Windows NT のレジストリ キーを 0 に設定してからバックアップを再実行して、ファイルを復元することができます。

HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Ntbackup\Backup Engine
 \Use fast file restore

ファイルの復元が完了した後、このキーの値を 1 に戻しておきます。

- * Windows NT のもとで Sytos Plus テープを復元したりカタログを作成すると、「ドライブ内のテープでデータ変換エラーが発生しました」というメッセージが出されます。これは、レジストリにあるバックアップ エラー訂正コード (ECC) フラグの値がテープ上のデータによって間違っ設定されているからです。レジストリ内の値は最優先されます。この問題を訂正するには、次のレジストリ キーを編集します。

HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Ntbackup\Translators
 \Sytos Plus ECC flag

このキーが 0 (OFF) のとき、バックアップはソフトウェア ECC が存在しないものと見なします。

このキーが 1 (ON) のとき、バックアップはソフトウェア ECC が存在するものと見なします。

このキーが 2 (AUTO) のとき、バックアップはテープが信頼できるものであると見なします。

値はテープの種類に従って次のように設定します。

4mm DAT	0	1/4 in.	525	0
8mm DAT	0	1/4 in.	150	1

3 コントロール パネル

3.1 【サービス】での円記号の使用

【サービス】オプションを使用する場合、パラメータで文字としての円記号 (\\) を入力するときには円記号を 2 つ入力しなければなりません (たとえば、\\\\server\\share は \\server\\share と解釈されます)。

3.2 プリンタの国別の標準形式の設定

『システム ガイド』の第 5 章の「そのほかの各国対応設定の使い方」で説明されている設定は、[Print Setup] ダイアログ ボックスの [Paper Size] オプションを制御しません。国別の標準形式に対応させるには、プリント マネージャを使用して設定を行わなければなりません。

3.3 サーバー サービスを一時停止しても Administrators や Server Operators の接続が可能

コンピュータのサーバー サービスを一時停止した場合、コンピュータのサーバー サービスが一時停止されても Administrators グループや Server Operators グループのユーザーはコンピュータに新たに接続することができます。その他のユーザーは接続できません。

3.4 Unicode フォントの組み込みを必要とするキーボード配置

次のキーボード配置は Unicode アプリケーション専用で、Lucida Sans Unicode という名前の Unicode のフォントを組み込んでおく必要があります。

チェコ語、ギリシャ語、ハンガリー語、ポーランド語、ロシア語

Lucida Sans Unicode フォントを組み込むには、コントロール パネルの [フォント] を使用します。このフォントは Windows NT の CD-ROM にあります。

4 ファイル マネージャ

4.1 圧縮された NTFS ファイルは圧縮解除されてからアクセスされる

NTFS ボリューム上で (COMPACT.EXE またはファイル マネージャの [圧縮] コマンドを使って) 圧縮されたファイルは、圧縮形式でハード ドライブに格納されます。圧縮形式のファイルは、NTFS ファイル システムそのものだけが読み取ることができます。Microsoft Word のようなアプリケーションや COPY のようなオペレーティング システム コマンドなど、他のプログラムによってこのファイルへのアクセスが要求された場合、NTFS ファイル システムは、ファイルを圧縮解除してから利用可能にします。したがって、たとえば、ある Windows NT Server 上の圧縮ファイルを、ネットワーク内の別の Windows NT Server 上にある圧縮が指

定されているディレクトリにコピーする場合、そのファイルはまず圧縮解除され、コピーされてからもう一度圧縮されます。

4.2 ファイルおよびディレクトリへのアクセス

ユーザーは、ファイルまたはディレクトリにユーザーによるアクセスを禁止するようなアクセス権が設定されている場合でも、ファイルまたはディレクトリに対して特定の動作を実行することができます。このアクセスは、親ディレクトリに対して設定されているアクセス権によるものです。

たとえば、ファイル (FILE1) を含むディレクトリ (DIR1) を所有しているものとします。ユーザーに、ディレクトリ DIR1 に対してはフル コントロールを与え、FILE1 に対してはアクセス権なしを指定したとしても、ユーザーは FILE1 を削除することができます。これは、ユーザーがディレクトリに対してフル コントロール アクセス権を持っているため、そのディレクトリの内容 (またはサブディレクトリ) の削除も許されるためです。

ファイルの削除を防ぐには、ファイルそのものに対してアクセス権を設定し、そのファイルを含むディレクトリに対して設定されているアクセス権を調べます。ディレクトリに対してフル コントロール アクセス権を持っているユーザーは、そのディレクトリからファイルを削除することができます。

同様に、ディレクトリに対して一覧、読み取り、その他のアクセス権を持っているユーザーは、ファイルの内容の表示を禁止するようなファイル アクセス権が設定されている場合でも、そのディレクトリに含まれる任意のファイル属性を表示させることができます。

4.3 コマンド プロンプトで使用されるファイルは OEM コード ページでなければならない

ファイル名には一定範囲の文字を使用することができますが、Windows NT のコマンド プロンプトでは Windows NT のセットアップ時に組み込んだ OEM コード ページしか表示されません。コマンド プロンプトでファイルに対して操作を行う予定であれば、ファイル名には英数字を使用して OEM コード ページにマップしない文字 (中点など) は使用しないようにした方がよいでしょう。

4.4 MS-DOS の UNDELETE の削除セントリ機能が Windows NT のメモリをブロックする

Windows NT では、MS-DOS version 6.2 の UNDELETE の削除セントリ機能を使用して FAT パーティションに作成された空き領域は認識されません。MS-DOS は、削除セントリ方式によって、削除されたファイルを記憶するためにハード ドライブの一部を確保しており、空き領域に関する問い合わせがあるとその領域で実際に使用されている領域を差し引いて全空き容量を報告します。一方、Windows NT では削除セントリ方式が使用できないので、FAT 上のこの領域全体が使用されていると見なされます。

4.5 Windows NT での HPFS の使用

ハイ パフォーマンス ファイル システム (HPFS) は OS/2 との互換性のためにサポートされています。Windows NT で最適なファイル システム パフォーマンスを得るためには、NTFS または FAT ファイル システムを使用してください。HPFS パーティションを NTFS パーティ

ションに変換するには、convert ユーティリティを使用します。

4.6 NTFS パーティションにおける短いファイル名生成の無効化

短いファイル名の生成を無効にすることによって、NTFS パーティションでのファイルの操作およびディレクトリの列挙のパフォーマンスが向上する場合があります。特に、8.3 形式の FAT ファイル システムの名前付け規則に従わないファイルやサブディレクトリが多く含まれるディレクトリにおいて、パフォーマンスが向上します。

短い名前の生成を無効にすると、長いファイル名を持つファイルは、システム上の 16 ビット アプリケーションによって認識されなくなります。ファイル サーバー上で短い名前の生成を無効にした場合、ファイルはサーバー上の MS-DOS クライアント、または Windows NT 上で実行される 16 ビット アプリケーションによって認識されなくなります。一般的に、16 ビット アプリケーションによって認識されないファイルは、有効な 8.3 形式の名前を持たないファイルです。

短い名前の生成を無効にするには、REGEDT32.EXE を使用して、次のレジストリ エントリを 1 に設定します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\FileSystem

NtfsDisable8dot3NameCreation REG_DWORD

範囲 0 ~ 1

コンピュータ上のすべての NTFS パーティションにおいて短い名前の生成を制御します。

デフォルト 0

4.7 FAT ファイルを NTFS ファイル システムに変換する

FAT ファイル システムから NTFS ファイル システムへのディスクの変換は、FAT ボリュームの現在の状態とボリューム サイズによっては、非常に時間のかかるものとなります。たとえば、1 GB のボリュームの変換には、数時間かかる場合があります。convert または autoconvert を使用するときには、変換の進行状況を示す状態情報は表示されません。convert プロセスが実行に失敗し、中断してしまったように見えるかもしれませんが、単に長い時間を必要としているだけということもあり得ます。このような場合には、翌日まで変換を実行させておいてください。

5 プログラム マネージャ

5.1 プログラム マネージャはデフォルトのシェルでなければならない

Windows NT では、デフォルトのシェルとしてのプログラム マネージャを置き換えるアプリケーションはサポートしていません。このようなアプリケーションの機能の多くはサポートされていますが、プログラム マネージャ全体を置き換えるものとして実行しないでください。

6 管理ツール

6.1 監査ログへのコンピュータ名の追加

ログオン イベントに対するイベント ビューアのログ エントリに、ログオンの試みが開始されたコンピュータの名前が含まれるようになりました。

6.2 Telnet の使用

Telnet ユーティリティは、プロポーショナル フォントを使用しているときには再描画の点でいくつかの問題があります。また、フォアグラウンドとバックグラウンドの色が異なる場合は、テキストの上または下に細い帯状にバックグラウンドの色が現れることがあります。

7 その他のアプリケーション環境

7.1 POSIX の使用

Portable Operating System Interface (POSIX) サブシステムは、非標準のロケールをサポートしなくなりました。POSIX アプリケーションは、ロケールを C または POSIX に設定しなければなりません。その結果、LIBCPSX.LIB および PSXDLL.LIB のいくつかの関数エントリ ポイントが変更されました。以前の POSIX アプリケーションは、コンパイルしなおして、新しいエントリ ポイントが使用されるようにしなければなりません。再コンパイルされていない以前の POSIX アプリケーションを実行すると、エントリ ポイントが見つからないという内容のポップアップ メッセージが表示されます。

7.2 目次ファイルの作成

ヘルプの目次ファイル (.CNT) を作成するには、グループ化したいファイルの名前を調べ、ベース ファイルとして 1 つのファイルを選びます。このファイルから、フル テキスト検索ファイルが構築されます。目次ファイルの作成には任意のテキスト エディタを使用できますが、ファイルは必ず ASCII テキスト フォーマットで保存しなければなりません。

目次ファイルを作成するには

1. 次の形式でベース ヘルプ ファイルの名前を入力します。
Base helpfile.hlp
2. 組み合わせたいそれぞれのヘルプ ファイルに対して、次の行を指定します。
Index title=helpfile.hlp
3. ファイルにベース ファイルと同じ名前と .CNT という拡張子をつけて保存します。

例:

```
Base usrmgr.hlp
Index Server Manager Help=srvmgr.hlp
Index User Manager Help=usrmgr.hlp
Index User Profile Editor=upedit.hlp
```

7.3 スタートアップ時のポップアップ メッセージの表示を抑制する

自動預金支払機など、コンピュータのスタートアップ時にポップアップが表示されては困るような特殊なアプリケーションを Windows NT で実行する場合は、スタートアップ時のポップアップ メッセージを抑制することができます。たとえば、「1 つ以上のサービスまたはドライバがシステム起動時にエラーになりました。」あるいは「システムは前回正常起動時の構成に戻されます。」などのメッセージがスタートアップ プロセスの途中で画面上に表示されるかもしれません。このようなポップアップ メッセージを抑制するには、次の手順を実行します。

1. ファイル マネージャまたは プログラム マネージャから REGEDT32.EXE ファイルを実行して、レジストリ エディタを起動します。または、コマンド プロンプトから start regedt32 と入力して、Enter キーを押します。

2. 次のレジストリ キーを見つけます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Control\Windows

3. [編集] メニューから [値の追加...] を選択します。

[値の追加] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [値の名前] ボックスに、NoPopupsOnBoot と入力します。

5. [データ タイプ] ボックスで、REG_DWORD を選択します。

6. [OK] をクリックします。

[DWORD エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。

7. [データ] ボックスに値を追加するか、文字列が表示された場合はその文字列を編集して、0 以外の値にします。たとえば、1 と入力します。

8. [基数] ボックスで、3 種類の数値表記オプションから 1 つを選択します。

9. [OK] をクリックし、新しいエントリをレジストリ エディタ ウィンドウに表示させます。

7.4 RISC コンピュータでの浮動小数点計算の精度

16 ビット アプリケーションを実行する RISC コンピュータでの浮動小数点計算の精度は 64 ビットに制限されます。16 ビット アプリケーションを実行する x86 および Pentium コンピュータでの浮動小数点計算の精度は 80 ビットです。このため、RISC ベースの Windows NT システム上で 16 ビット アプリケーションを実行する場合、MS-DOS および Windows 3.x ベースのシステムと完全に同一の値を得られないことがあります。

7.5 MS-DOS ベースのディスク ユーティリティの使用

Windows NT 3.51 の長いファイル名の形式は、MS-DOS とは異なる FAT パーティション上のファイル要素を使用します。Windows NT 3.51 で使用される FAT パーティション上で MS-DOS ベースのディスク ユーティリティを使用すると、ファイルが削除されたり、長いファイル名が失われたりする場合があります。Windows NT 3.51 専用開発されたディスク ユーティリティだけを使用するか、あるいは、MS-DOS の実行時には **chkdsk** または **scandisk** ユーティリティを使用することを推奨します。

Windows NT 3.51 FAT ファイル システムが長いファイル名を使用しないようにするには、次のレジストリ エントリを 1 に設定しなければなりません。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\FileSystem\
Win31FileSystem

このエントリを変更したら、コンピュータを再起動して変更を有効にしなければなりません。

注意: PCTools の **diskfix** ユーティリティは、FAT パーティション上のすべてのファイルを削除することが報告されています。Windows NT 3.51 で使用される FAT ディスク パーティション上で MS-DOS ベースのディスク ユーティリティを使用する場合、このレジストリ エントリを 1 に設定しないと、この FAT パーティション上の長いファイル名が失われたり、ファイルが削除されたりすることがあります。**chkdsk** 以外のディスク ユーティリティを使用する前に、FAT パーティションのバックアップを行ってください。

7.6 デフォルトの 16 ビット プリンタ ドライバの組み込みによる誤ったポップアップの表示

16 ビットの Windows ベースのアプリケーションによって、メモリが不足していることやシステム リソースが不足していることなどを示すポップアップ メッセージが誤って表示される場合があります。これらのポップアップの多くは、16 ビットのプリンタ ドライバが通常使用するプリンタに対して指定されているときに発生します。これは、16 ビット アプリケーションのセットアップ プログラムが 16 ビットのプリンタ ドライバを組み込み、これをシステムの通常使用するプリンタとして指定したときに発生します。組み込みが行われると、Win32 API は 16 ビットのデバイス ドライバとともに動作するように設計されていないため、それ以降の Win32 API によるこのデバイス ドライバの呼び出しは失敗します。

通常、この問題は、プリント マネージャを使用して通常使用するプリンタをほかのプリンタに設定することによって解決できます。

7.7 OS/2 ブート マネージャの削除

OS/2 ブート マネージャの削除を選択した場合、Windows NT で OS/2 のブート マネージャを無効にするのに必要な手順を完了するため、コンピュータを 2 回再起動しなければなりません。

7.8 Windows 3.1 ベースのアプリケーションに対するドライバのロード

Windows NT で実行可能な MS-DOS 用のデバイス ドライバ、あるいは Windows NT 用の仮想デバイス ドライバを必要とする Windows 3.1 ベースのアプリケーションを実行する場合には、CONFIG.WOW を修正して、ドライバをロードするようにしてください。Windows NT 日本語版では、Windows 3.1 ベースのアプリケーションの実行時のドライバのロードには、CONFIG.NT ではなく CONFIG.WOW が使用されます。

7.9 AUTOEXEC.NT

Windows NT 3.1 および 3.5 日本語版では、%SystemRoot%\SYSTEM32 ディレクトリに以下の 2 種類のファイルがありました。

AUTOEXEC.NT DOS アプリケーション実行時に使用
AUTOEXEC.WOW 16 ビット Windows アプリケーション実行時に使用

Windows NT 3.51 日本語版では、DOS および 16 ビット Windows アプリケーションの両方の実行時に、AUTOEXEC.NT が使用されるよう変更されました。

8 マルチメディア ドライバおよびアプリケーション

8.1 Windows NT における API サポート

Microsoft Video for Windows 1.1 と同様のオーディオおよびビデオの圧縮、再生、およびキャプチャを提供する API サポート (32 ビットおよび 16 ビット) が、Windows NT 3.51 の一部として自動的に組み込まれます。これには、特定の (Microsoft Encarta およびその他のタイトルの) ビデオ クリップを表示するために必要な、Radius, Inc. の Cinepak 32 ビットビデオ圧縮および圧縮解除のサポートが含まれます。また、Windows NT 3.51 は、特定のタイトルおよびテレビ会議アプリケーションで使用される Intel の Indeo 圧縮および圧縮解除アルゴリズムの 32 ビット サポートも提供します。

8.2 RISC ベースのコンピュータ上で実行できない 16 ビット アプリケーション

16 ビット アプリケーションの中には、RISC ベースのコンピュータ上で「Invalid instruction」エラーが発生して実行できないものがあります。これは、Windows NT の下でこれらのアプリケーションとともに組み込まれた Video for Windows 1.1 のランタイムに、386 エンハンスト モード命令が含まれているためです。Windows NT では、286 実行パスを含む多くの更新が行われています。このことは MCI 再生を使用するマルチメディア タイトルにはほとんど影響しませんが、Video for Windows の API の in-depth 関数を使用するアプリケーションには影響があります。

9 レジストリの値の編集

Windows NT のレジストリは、システムが使用する情報が収められたデータベースです。特定のハードウェアおよびソフトウェアの実行に必要な情報をシステムに提供するために、レジストリの値を変更したり、追加したりしなければならない場合があります。このような場合には、Windows NT のレジストリ エディタを使用してレジストリの値を編集することができます。

レジストリの値は、名前:データ タイプ:値の形式で表示されます。
次のようなデータ タイプがサポートされています。

データ タイプ	説明
REG_BINARY	2 進法または 16 進法で表示できるバイナリ データ。
REG_DWORD	2 進法、16 進法または 10 進法で表示できる 4 バイトのデータ。
REG_EXPAND_SZ	変数を含むテキスト データ。
REG_MULTI_SZ	複数の値を含むテキスト データ。
REG_SZ	テキスト データ。

注意: レジストリの内容を誤って変更したり、削除したりすると、Windows NT に悪影響を及ぼし、システムを正常に実行できなくなる場合があります。

9.1 レジストリ エディタの起動

レジストリ エディタは、Windows NT のセットアップ時に、ほかの Windows NT ファイルとともに、通常、%SystemRoot%\SYSTEM32 ディレクトリに組み込まれます。レジストリ エディタを起動するには、ファイル マネージャまたはプログラム マネージャから REGEDT32.EXE を実行します。もしくは、コマンド プロンプトで regedt32 と入力し Enter キーを押します。

9.2 レジストリ キーの移動

レジストリ エディタはレジストリの各ルート キーについてのウィンドウを表示します。各ウィンドウには 2 つの枠が表示されます。左側の枠にはレジストリ キーのツリー構造が示され、ファイル マネージャを使用してディレクトリの構造をたどっていくように、各レジストリ キーをたどっていくことができます。たとえば、キーの名前をダブルクリックすることによって、そのキーの下のレベルのツリーを表示または縮小することができます。左側の枠の中のキーを選択すると、右側の枠には、そのキーの値が表示されます。

レジストリ内での値の位置は、そのキーのパスによって指定します。たとえば、

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\WOW

に移動するには、まず、HKEY_LOCAL_MACHINE ウィンドウを開き、パスに指定された各キーをたどって WOW キーまで移動します。WOW キーを選択すると、このキーの値がウィンドウの右側の枠に表示されます。

9.3 レジストリの値の変更

1. レジストリ ツリーを適切なキーまで移動し、変更する値を表示します。
2. レジストリ エディタのウィンドウの右側の枠の値をダブルクリックします。
または、値を選択し、その値のデータ タイプに応じて適切なエディタを [編集] メニューから選択します。
 - REG_BINARY データを編集する場合は [バイナリ] を選択します。
 - REG_SZ および REG_EXPAND_SZ データを編集する場合は [文字列] を選択します。
 - REG_DWORD データを編集する場合は [DWORD] を選択します。
 - REG_MULTI_SZ データを編集する場合は [複数行ストリング] を選択します。
3. [エディタ] ダイアログ ボックスで値を編集し [OK] ボタンをクリックします。ダイアログ ボックスの [ヘルプ] ボタンをクリックすることにより、[エディタ] ダイアログ ボックスでの詳細な操作方法を参照することができます。

9.4 新しいレジストリの値の追加

1. レジストリ ツリーを移動し、値を追加するキーを選択します。
2. [編集] メニューの [値の追加] を選択します。

3. [値の追加] ボックスで新しい値の名前を入力します。
4. [データ タイプ] ボックスで新しい値のデータ タイプを選択します。
5. [OK] ボタンをクリックします。レジストリ エディタは、新しい値のデータ タイプに応じて適切なエディタを表示します。
6. [エディタ] ダイアログ ボックスで新しい値を追加し、[OK] ボタンをクリックします。レジストリ エディタは、正しい形式でレジストリに値を追加します。

ダイアログ ボックスの [ヘルプ] ボタンをクリックすることにより、[エディタ] ダイアログ ボックスでの詳細な操作方法を参照することができます。

10 Microsoft Windows NT メッセージ データベース

Microsoft Windows NT メッセージ データベースは、Windows NT オペレーティング システムによって表示されるエラー メッセージおよびシステム情報メッセージのほとんどについて説明しています。

10.1 メッセージ データベースのセットアップ、起動および終了

Windows NT コンパクト ディスクに収められているセットアップ プログラム (SETUP.EXE) を使用し、Microsoft Windows NT メッセージ データベースを、使用しているコンピュータに組み込んで個人的に使用したり、ネットワーク サーバーに組み込んで共有したりすることができます。

CD-ROM ドライブから メッセージ データベースをセットアップするには

1. Windows NT を起動します。
メッセージ データベースをほかのユーザーと共有する場合は、このデータベースを組み込む前に必ず管理者としてログオンしてください。
2. Windows NT コンパクト ディスクを CD-ROM ドライブに挿入します。
3. プログラム マネージャの [アイコン] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選びます。[ファイル名を指定して実行] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [コマンド ライン] ボックスに、CD-ROM のドライブ名:\MESSAGES\SETUP と入力します。
5. [OK] ボタンをクリックします。
6. 画面の指示に従ってセットアップを完了します。
メッセージ データベースをほかのユーザーと共有する場合は、セットアップがこのデータベースを組み込む場所の指定を要求したときにネットワーク サーバーへのパスを指定します。ワークグループを確立していない場合は、ワークグループに参加するかどうかをたずねられたときに [いいえ] ボタンを選びます。

注: メッセージ データベースのセットアップ中に WINHELP.EXE を置き換えるかどうかたずねられたときは、必ず [いいえ] を選択してください。置き換えを行った場合、16 ビット アプリケーションの日本語ヘルプ ファイルが正しく読めなくなる可能性があります。

必要なファイルを組み込むと、セットアップ プログラムは [Microsoft Windows NT メッセージ] プログラム グループを作成し、このグループの中に [Microsoft Windows NT メッセージ]、[ワークグループの変更]、[データベースの圧縮] および [お使いになる前に] というアイコンを配置します。

注: メッセージ データベースを Windows NT ファイル システム (NTFS) のパーティションに組み込む場合は、ファイル マネージャの [セキュリティ] メニューで、すべてのユーザーがこのディレクトリおよびディレクトリの内容についての変更 (RWXD) アクセス権を持っていることを確認してください。

10.2 Windows NT での メッセージ データベースの実行

このデータベースの メッセージ フォームにおいて、[検索]、[メモ]、[印刷] ボタンを使用する手順の詳細については、このデータベースに付属するオンライン ヘルプを参照してください。この製品について最終的に行われた変更内容は、[Microsoft Windows NT メッセージ] プログラム グループの中の [お使いになる前に] に記述されています。ヘルプでは、次のような操作についての手順が説明されています。

メッセージ データベースでの情報の検索
検索条件としての変数の使用
新しい検索の開始
メッセージ データベースでのノートの追加および削除
印刷のセットアップ
データベース レポートの印刷

11 オンライン ブックの組み込み

Windows NT マニュアルのオンライン バージョンは、Windows NT コンパクト ディスクに収められています。プログラム マネージャからオンライン ブックを表示させるには、まずアイコンを作成しなければなりません。

オンライン ブックのアイコンを作成するには

1. Windows NT を起動します。
2. CD-ROM ドライブに Windows NT コンパクト ディスクを挿入します。
3. プログラム マネージャで、オンライン ブックのアイコンを追加したいプログラム グループを開きます。
ログオンしたすべてのユーザーがオンライン ブックを参照できるように、個人用グループではなく共通グループを使用するとよいでしょう。
4. [アイコン] メニューから [登録とグループの作成] を選び、[アイコンの登録とグループの作成] ダイアログ ボックスを表示させます。[アイコンの登録] オプションを選択して、[OK] をクリックします。
[アイコンの登録内容の変更] ダイアログ ボックスが表示されます。

5. [タイトル] ボックスに、「オンライン ブック」のように説明を入力します。
6. [コマンド ライン] ボックスに、パスと拡張子を付けたプログラム名を入力します。
たとえば、すべてのドキュメント ファイルをドライブ D のコンパクト ディスク上に置いておきたい場合は、次のように入力します。

d:\support\books\workstn.hlp (または、Windows NT Server の場合は server.hlp)

ファイルをハード ディスク上に置いておきたい場合は、ディレクトリを作成し、すべてのファイルをコンパクト ディスクからそのディレクトリへコピーします。それから、そのパスを [コマンド ライン] ボックスで指定します。

7. [OK] をクリックします。
ダイアログ ボックスが閉じられ、選択したグループ内に汎用ヘルプ アイコンが表示されます。

11.1 Windows NT 3.51 の下での Windows 95 ヘルプ機能

新しいヘルプ システムでは、いくつかのヘルプ ファイルをグループ化して、複数のヘルプ ファイルにまたがるフル テキスト検索を行うことができます。Windows NT の以前のバージョンでも複数のヘルプ ファイルにまたがって検索を行うことができましたが、新しいバージョンでは、フル テキスト検索に含めるヘルプ ファイルを選択することができます。Windows NT 3.51 に付属するヘルプ ファイルは事前にグループ化されており、Windows NT 3.51 を組み込んだときにフル テキスト検索インデックス (*.FTS ファイル) も作成され、組み込まれます。新しいヘルプ システムについての詳細は、ソフトウェア開発キットのヘルプ ファイル HCW.HLP を参照してください。

しかし、新しいヘルプ システムは、以前のバージョンの Windows または Windows NT ヘルプ ファイルに対して作成されている以前のフル テキスト検索インデックス (.IND という拡張子を持つファイル) をサポートしません。Windows NT 3.51 のヘルプ ファイルに対して初めてフル テキスト検索を実行するときにフル テキスト検索インデックス (*.FTS ファイル) がまだ作成されていない場合は、フル テキスト検索インデックスの作成を促す画面を表示します。インデックスは、単一のヘルプ ファイルに対して作成するか、または、共通の目次ファイルによってグループ化されているヘルプ ファイルがある場合はそのファイル グループに対して作成することができます。新しいヘルプ システムの使用法およびフル テキスト検索インデックスの作成についての詳細は、[ヘルプ] メニューの [ヘルプの使い方] コマンドを参照してください。

フル テキスト検索インデックスは、[ヘルプ] ウィンドウの [検索] ページから作成されます。ユーザーがフル テキスト検索インデックスを作成する場合、デフォルトでは、インデックスの作成に使用されたヘルプ ファイルが収められている場所に情報が格納されます。ただし、ヘルプ ファイルが読み取り専用サーバーに格納されている場合は、フル テキスト検索ファイルはその読み取り専用サーバーに書き込まれるのではなく、ローカルに格納されます。使用するヘルプ ファイル (1 つまたは複数) の大きさにもよりますが、作成される *.FTS ファイルはかなり大きくなる場合があります。

Windows NT 3.51 上で複数のファイルにまたがるフル テキスト検索を行うためにファイルをグループ化するには、グループ化したいすべてのファイル名を含む目次 (.CNT) ファイルを作

成しなければなりません。

注: すべての Windows NT 3.51 ヘルプ ファイルは、目次ファイルとフル テキスト検索ファイルを持っています。Windows NT 3.51 ヘルプに対して新しい目次ファイルやフル テキスト検索ファイルを作成する必要はありません。

11.2 ヘルプの使い方

Windows NT Workstation および Windows NT Server 上で複数のファイルにまたがるフル テキスト検索を行うためにグループ化されているファイルは、次のとおりです。

グループ 1: SCHDPL32.HLP, MSMAIL32.HLP

グループ 2: USERMGR.HLP, SVRMGR.HLP, UPEDIT.HLP, LICCPA.HLP

グループ 3: WINDISK.HLP (または WINDISKA.HLP), PERFMON.HLP, BACKUP.HLP, EVENTVWR.HLP

グループ 4: WINNT.HLP, GLOSSARY.HLP, NTCMDS.HLP

グループ 5: PROGMAN.HLP, WINFILE.HLP, PRINTMAN.HLP, CLIPBRD.HLP

グループ 6: SNDVOL32.HLP, SOUNDREC.HLP, CDPLAYER.HLP, MPLAYER.HLP

Windows NT Workstation および Windows NT Server のその他のヘルプ ファイルは、グループ化されていません。

16 ビット モードでヘルプを実行しなければならない場合、Windows NT Workstation および Windows NT Server には、16 ビット モード用の Windows ヘルプ実行可能ファイルである WINHELP.EXE が含まれています。ファイル マネージャを使ってヘルプ ファイルを WINHELP.EXE に関連付けることができますが、その場合はすべてのヘルプ ファイルをひとまとめに関連付けなければならない、個別に関連付けることはできません。32 ビット ヘルプ ファイル (Windows NT Workstation および Windows NT Server のすべてのヘルプ ファイルは、32 ビット ヘルプ用にコンパイルされています) を 16 ビット WINHELP.EXE に関連付けると、複数のファイルにまたがる検索など、一部の機能が失われます。WINHELP.EXE は、%SystemRoot% ディレクトリに収められています。

12 メモ帳

メモ帳を起動するときに 3 つのスイッチを指定することができます。これらのスイッチは、コマンド プロンプト、タスク リスト、およびプログラム マネージャ ([アイコン] メニューの [ファイル名を指定して実行] または [アイコンの登録内容の変更] ダイアログ ボックスの [コマンド ライン] オプション) で使用することができます。

notepad [/p] [/a | /w] ファイル名

/p

指定したファイルを印刷します。

/a

指定したファイルを ASCII としてロードします。

/w

指定したファイルを Unicode としてロードします。

13 特定のコンピュータ システムに関する注意事項

13.1 Intel Pentium プロセッサの浮動小数点エラーに関するソフトウェア アップ デート

このリリースの Windows NT 3.51 には、プロセッサに Pentium 浮動小数点除算エラーが含まれているかどうか調べ、浮動小数点の現在の状態を報告し、ハードウェア浮動小数点の有効化/無効化を行うユーティリティ (PENTNT.EXE) が含まれています。このソフトウェアは、浮動小数点命令をトラップすることにより、効率的に数値演算コプロセッサを無効にします。そのため、プロセッサは、数値演算コプロセッサを持たない 486SX または 386 プロセッサと同じように動作するようになります。このユーティリティは、x86 ベースのシステムで実行できます。

また、レジストリの設定による解決方法も実現されているので、システム管理者は、ユーザーシステム上の Pentium 浮動小数点ハードウェアの使用を制御することができます。

パフォーマンスについて

Windows NT のコア オペレーティング システム コード (ウィンドウ管理、ディスクおよびファイル操作、アプリケーション プログラミング インターフェイス) は浮動小数点計算を行わないので、浮動小数点ハードウェア除算エラーの発生する可能性によってもハードウェア浮動小数点の無効化によっても影響を受けません。ただし、浮動小数点のソフトウェア エミュレーションを選択すると、浮動小数点計算の処理性能が低下します。Windows NT に付属の電卓アプリケーションや OpenGL レンダリング エンジンなど、ユーティリティやアプリケーションによっては、可能であれば浮動小数点ハードウェアを使用するものがあります。ワード プロセッサ、データベース、電子メールなどのほとんどのソフトウェア プログラムは、ほとんど浮動小数点計算を行いません。

スプレッドシートやテクニカル アプリケーションなど、数値演算を多用するアプリケーションは一般に浮動小数点計算を行うので、処理速度が多少低下します。Windows NT 3.51 の一部である OpenGL レンダリング エンジンや、他の 3D および CAD アプリケーションがこのようなタイプのアプリケーションの例です。このようなアプリケーションのユーザーは、高速なハードウェア浮動小数点を使用するか、低速ではあるけれども Pentium プロセッサの浮動小数点除算エラーが発生しない浮動小数点ソフトウェア エミュレーション ライブラリを使用するかを選ぶことができます。多くのアプリケーションには、このような場合に使用する独自の浮動小数点ライブラリを含んでいます。少数のアプリケーションは浮動小数点ハードウェアを必要とし、浮動小数点ハードウェアが存在しない場合は実行できません。このようなアプリケーションを実行するユーザーは、浮動小数点除算エラーを避けるために Pentium プロセッサを置き換えるとよいでしょう。浮動小数点ソフトウェア エミュレーション ライブラリは、486SX または 386 プロセッサを持つシステムで使用されます。

PENTNT.EXE の実行

PENTNT.EXE ユーティリティの実行については、コマンド プロンプトから次のように入力してください。

```
pentnt [-?]
```


レジストリ エントリ

PENTNT.EXE ユーティリティのレジストリ エントリは、レジストリ サブツリー HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Control\SessionManager にあります。PENTNT.EXE は、次のパラメータを使用します。

REG_DWORD

ForceNpxEmulation=0|1|2

パラメータには、浮動小数点エミュレーションを有効にするか無効にするかを指定します。0 に設定した場合は、浮動小数点エミュレーションが無効にされ、浮動小数点ハードウェアが有効になります。1 に設定した場合は、条件付き浮動小数点エミュレーションが有効になります。2 に設定した場合は、無条件エミュレーションが有効になります。デフォルトでは、このパラメータは 0 に設定されています。

13.2 ACER AcerFrame 3000 MP

Windows NT を組み込む前に、シャドウ RAM Video BIOS を無効にします。

13.3 Ambra ビデオ ディスプレイ

Ambra のコンピュータ上で 16 色表示を選択すると、ウィンドウの画面表示が所々乱れます。256 色表示に切り替えることにより、正常に表示されます。

13.4 AST EISA システムのメモリ

AST EISA システムでは、16 MB しか RAM が搭載されていない場合でも、16 MB を超えるメモリへのアクセスを有効にしてください。メモリを有効にするには、コンピュータに添付されている EISA 構成ユーティリティを実行してください。

13.5 AST Premmia

Premmia の特定のバージョンの BIOS は、Windows NT と互換性がありません。内蔵の IDE ドライブを使用するには、バージョン 2.03 の BIOS が必要です。

13.6 DELL

DELL Omniplex を Windows NT 3.51 システムに更新する際に問題が発生した場合は、BIOS の更新が必要となることがあります。BIOS のレベルは 5xx_a08 でなければなりません。この更新された BIOS については、Dell にお問い合わせください。

DELL の 486D/50 システム、433DE EISA システム、25/50 MHz ISA システムなどのモデルでは、Windows NT 実行時に 16 MB 以上の RAM を認識できない場合があります。Dell にお問い合わせの上、BIOS をバージョン A11 以上のものにアップグレードしてください。

DELL Omniplex に Windows NT を組み込む前に、DELL によって供給される MONITOR.EXE プログラムを実行しなければなりません。65,000 色モードを使用する場合は、

同期周波数を 60 Hz に設定します。

13.7 Digital Alpha システムのファームウェア アップグレード

Microsoft Windows NT Workstation または Windows NT Server 3.51 を Alpha システムに組み込む前に、システムのファームウェアを要求されるバージョンにアップグレードしておく必要があります。

個々の Alpha システムに必要なファームウェアのバージョンは、以下の通りです。

Alpha システム	ARC ファームウェア
DEC 2000 model 500	V3.5-4
DECpc AXP 150	V3.5-4
AlphaStation 200	V4.28
AlphaStation 400	V4.28
Alpha 233 PowerGrade	V4.1-22
AlphaServer 1000	V4.26
AlphaServer 2000	V3.5-30(mp)
AlphaServer 2100	V3.5-30(mp) *1

*1 : model 5/200 の場合のみ V4.29

なお、EISA バス搭載システムには別途 ECU (EISA Configuration Utility) が必要です。ECU は V1.5 以上のバージョンを購入してください。詳細につきましては、日本デジタルイクイップメント株式会社 (日本 DEC) 製品企画本部 NT 事業推進室 (03-5349-7328) にお問い合わせください。

これ以外のシステムについては、以下の場所で提供される README.TXT ファイルを参照してください。ファームウェアを入手、適用するための説明が記載されています。

README.TXT ファイルは、以下の場所で入手できます。

* CompuServe では、Library Section [4]、Hardware Support の DEC4WNT フォーラム

* GATEKEEPER.DEC.COM の FTP 経由では、gatekeeper に接続します。README.TXT ファイルは、/private/fwaxp にあります。

上記の方法を利用できない方は、日本デジタルイクイップメント株式会社 (日本 DEC) 製品企画本部 NT 事業推進室 (03-5349-7328) にお問い合わせください。

13.8 DFI 9800T

DFI 9800T システムに Windows NT を組み込むには、[カスタム セットアップ] を選択し、S キーを押して SCSI 検出をスキップします。システム上に SCSI ホスト アダプタがある場合は、適切なエントリを選択して手動でそのアダプタを追加することができます。

13.9 Gateway 2000 および Micronics Gemini 486 VESA ローカル バス マ

マザーボード

UltraStor 製の U34F ローカル バス コントローラを搭載した Micronics Gemini 486 VESA ローカル バス マザーボードを使用したシステム上では、タイミングの問題で Windows NT の実行が停止する場合があります。Gateway の古いシステムの中には、このハードウェアの組み合わせを使用しているものがあります。

マザーボードの外部キャッシュを無効にすることにより、Windows NT を実行することができます。この問題は、UltraStor の ISA バス コントローラでは発生しません。また、青い OverDrive ソケットを持つ Gateway 2000 や Micronics VESA ローカル バス マザーボードでは発生しません。

Micronics によって供給される Gemini 486 VESA ローカル バス マザーボード用のアップグレードを入手することによって、この問題を解決することができます。このマザーボードをアップグレードするには、Micronics に返送する必要があります。このボードの Micronics のリファレンス番号は VLBA03 です。詳細については Micronics にお問い合わせください。Gateway のコンピュータのアップグレード情報については、Gateway 2000 にお問い合わせください。

13.10 Gateway Nomad ノートブックおよび TI Travelmate ノートブック

これらのコンピュータに Windows NT を組み込むには、[カスタム セットアップ] を選択しなければなりません。セットアップ実行時に SCSI アダプタの走査によって問題が発生した場合は、SCSI 検出をスキップすることによってこの問題を解決することができます。

Windows NT でフロッピー ドライブを正常に使用できるようにするには、セットアップ ユーティリティでシステムを構成します。[Advanced Operating System] オプションは [Auto] に設定してください。マシン上に Texas Instruments 製のパワー マネジメント ドライバがある場合は、[Auto] オプションの設定は必要ありません。

Windows NT の下で、内蔵の InPort/QuickPort マウス アダプタを正常に動作させるには、Texas Instruments 製のマウス ドライバが必要です。このマウス ドライバを入手するまでは、シリアル マウスを使用することもできます。

これらのコンピュータの内蔵モデムを使用する場合は、Texas Instruments 製のパワー マネジメント ドライバおよびソフトウェアが必要です。

13.11 IBM PS/2

IBM PS/2 システムの中には、Windows NT CD-ROM ブート ディスクまたはセットアップ フロッピー ディスク セットのセットアップ ブート ディスクからのブート時に、プレーナ メモリしか認識しないものがあります。これは、メモリ カードの問題です。次のような部品番号のカードがシステムに搭載されている場合に、この問題が発生することがあります。

FRU-88F0075

Option 87F9856 または 87F9860

新しいモデルのカードでは、この問題が修正されています。新しいカードの部品番号は次のと

おりです。

FRU-87F9916 または 34F2825
Option 34F3077 または 34F3011

この問題は、Kingston の EMS メモリを使用することによって修正することもできます。

Windows NT の組み込みを行う前に、バージョン 1.12 以降の PS/2 リファレンス ディスケットを使用してシステムの構成を更新しておくことを推奨します。

13.12 IBM PS/2 モデル 53、76、76i、77、および 77i、IBM ThinkPad モデル 700c および 720c

これらのシステムに Windows NT を組み込んで実行するには、ABIOS パッチが必要です。IBM リファレンス ディスケットから C:\ ディレクトリに次のファイルをコピーします。
ABIOS.SYS
*.BIO

13.13 IBM ThinkPad ポータブル コンピュータ

これらのポータブル コンピュータでは、16 色を使用する 640x480 の解像度のみ使用することができます。

13.14 Future Domain SCSI を内蔵する IBM ThinkPad Docking Station

Future Domain SCSI チップを正常に動作させるには、IRQ 5 に構成しなければなりません。

13.15 Olivetti LSX5030

ROM シャドウイングをすべて無効にします。

13.16 モノクロの Toshiba T4400SX

外部モニタが接続されている場合、このディスプレイはサポートされません。

13.17 EISA バスを搭載するコンピュータでのメモリ構成の変更

Windows NT を実行するコンピュータに搭載するメモリを変更する場合、コンピュータに添付されている EISA 構成ユーティリティを実行しなければなりません。このユーティリティを実行できない場合は、Windows NT を実行できません。

14 ビデオ ディスプレイ ドライバおよびアダプタ (x86 ベースのコンピュータ)

Windows NT では、ハイエンドのディスプレイ アダプタを含む 70 種以上のビデオ ディスプレイ アダプタについて、優れたサポートを行っています。ここでは、Windows NT でビデオ サポートについて詳細に説明します。この節の説明は、x86 ベースのコンピュータにのみ

適用されます。

このリリースでは、VGA 標準ビデオ カードに加え、いくつかの新しいビデオ カードがサポートされています。使用するビデオ カードがエンハンスド ドライバでサポートされていない場合は、自動的に VGA が選択されます。

14.1 構成のテスト

ディスプレイの設定を変更する場合、必ず、[ディスプレイの設定] ダイアログ ボックスの [テスト] ボタンを使用してビデオ ディスプレイがどのように表示されるかを確認しなければなりません。正常に動作していない場合でも、Windows NT では検出できない場合があります。たとえば、65536 色モードおよびトゥルー カラー モードは多くのアダプタでサポートされていますが、これらのチップ セットが搭載されたすべてのカードでこれらの新しいモードを表示できるわけではありません。この原因としては、旧バージョンのチップ、カード上のビデオ メモリの容量、またはその他のハードウェアの機能があります。

注意: 新しい構成を行うために、コントロール パネルの [ディスプレイ] オプションを使用する前に新しいビデオ カードを組み込んだ場合、コンピュータが正常に再起動されないことがあります。このような場合には、元のカードがあればこれを組み込んで [ディスプレイ] オプションを使用して構成を修正するか、あるいは、ブート ローダーのスタートアップ画面で [VGA] ブート オプションを選択します。後者の方法をとる場合は、実行中のビデオ ドライバを手動で無効にしなければなりません。

14.2 Windows NT 3.51 ビデオ ドライバへの更新

Windows NT 3.51 用の最新のビデオ ドライバを使用することを推奨します。Windows NT 3.1 のビデオ ドライバを続けて使用することもできますが、パフォーマンスの向上やコントロール パネルの [ディスプレイ] オプションによる新しい機能を利用することはできません。また、ビデオ ドライバの多くのバグが修正されています。

Microsoft 以外のビデオ ドライバを使用している場合、そのドライバを続けて使用することができますが、このようなドライバの多くは Windows NT 3.51 ではテストが行われていません。問題が発生した場合は、そのドライバのプロバイダにお問い合わせください。

14.3 Matrox MGA または Compaq QVision 2000 ディスプレイ アダプタの使用

Windows NT 3.51 に含まれている Matrox MGA および Compaq QVision 2000 互換のディスプレイ ドライバは、他のデバイスと入出力が競合するという誤った報告をイベント ログに生成することがあります。イベント ログに MGA または競合デバイスのドライバのロードの失敗を示すメッセージが含まれていない場合は、競合の報告メッセージは意味がなく、無視してかまいません。

システムと ISA Matrox MGA 互換カードの種類によっては、8 ビット アクセスを行う MGA カードのメモリ アパーチャが AC000 に設定されていると、ログインの後に NTVDM アクセス違反を引き起こすものがあります。このエラーが発生した場合は、MGA マニュアルでメモリ ロケーションとカードのビット アクセスの変更方法を調べてください。

Windows NT 3.51 に含まれている Matrox MGA ディスプレイ ドライバでは、4MB Matrox Impression Plus を使用し、256 色の解像度 640x480、800x600、1024x768、または 1152x882 で実行している場合、または 32768 色の解像度 640x480 または 800x600 で実行している場合は、Microsoft 3D DDI により完全な 3D ハードウェア アクセラレーションが可能です。3D アクセラレートされた 256 色解像度で実行している場合は、多くの OpenGL アプリケーションが全 256 色パレットを必要とし、OpenGL アプリケーションに入力フォーカスが与えられたときにバックグラウンド ウィンドウの色を変化させます。色は、その後 OpenGL 以外のアプリケーションに入力フォーカスが与えられると、復元されます。

14.4 S3 864 チップを使用するビデオ カード間のアドレス競合

S3 864 チップを使用するビデオ カードは、他のカードと競合するアドレスを使用し、いずれか片方、または両方のカードが正しく動作しないようにしてしまう場合があります。この競合の結果、一般にはデバイス ドライバがロードに失敗します。デバイス ドライバが問題を検出できなかった場合は、結果が予測不可能となる場合があります。

このことに関係する S3 カードは、C0000 から CFFFF までのアドレスを持つものです。Windows NT 3.51 は、このアドレスを、誤って C0000 から C7FFF と報告する場合があります。この問題を修正するには、競合するカードを再構成して、競合しないアドレス範囲を使用するようにします。使用可能なアドレス範囲は、カードにより異なります。詳細については、カード メーカーのマニュアルを参照してください。

このアドレス競合の一例は、IBM Token Ring 16/4 ISA アダプタです。このアダプタは、デフォルトで CC000 から CDFFF までのアドレス範囲を使用します。アドレスの競合が発生した場合は、トークン リング デバイス ドライバがロードに失敗します。イベント ログには、「IbmTok1: 指定した I/O ベース アドレスがアダプタのジャンパと一致しません。」というエラー メッセージが記録されます。

この競合を簡単に修正する方法は、スイッチ ブロック S-2 のスイッチを変更して、トークン リング カードの ROM アドレスを CC000 から DC000 に変更することです。スイッチ ブロック S-2 のスイッチ 1~6 の設定を、
off-on-on-off-off-on
から
off-on-off-off-off-on
に変更します。

14.5 ビデオ ディスプレイ構成のトラブルシューティング

問題が生じた場合は、もう一度ビデオ ディスプレイ アダプタのマニュアルを参照して適切な設定を行ってください。以前に Windows 3.1 の下でこのカードを組み込んでいた場合は、Windows NT に関する説明を見落としている場合があります。

一般的に、Windows NT のビデオ ドライバは割り込みを使用しません。VGA カードの多くは、EGA との互換性を保つためにジャンパの設定で IRQ 2 の割り込みが有効になっています。可能であれば、IRQ 2 の割り込みを無効にしてください。

Windows NT では、セットアップ時にカードの垂直同期周波数を設定することができます。モニタのマニュアルを読んで、使用可能な設定を確認してください。よくわからない場合は、最も低い解像度および同期周波数を選択します。セットアップが完了した後、コントロール パネ

ルの [ディスプレイ] オプションを使用して、モニタに最適な設定を選択することができます。

注意: モニタによっては、誤ったビデオの設定によって物理的に損傷する場合があります。新しい設定を選択する前に、モニタのマニュアルでよく確認してください。

解像度の設定を変更して再起動した後、ディスプレイの表示に異常がある場合は、もう一度コンピュータを再起動して、オペレーティング システムを選択するときに [VGA] モード オプションを選ぶか、あるいは、起動時に前回正常起動時の構成を復元する機能を使用して以前のビデオの設定に戻します。

特定の種類のビデオ ディスプレイについて以下に説明します。このファイルの「ATI ドライバに関する注意事項」も参照してください。

14.6 Cirrus および ET4000

一部のシステムだけが 64K VGA をサポートしており、また、64K VGA は 640x480 の解像度のみサポートしています。800x600 の解像度の場合、8 bpp で 1 MB のビデオ メモリが必要です。

14.7 S3 VGA

ほとんどの S3 ベースのビデオ カードの垂直同期周波数は、カード上のディップ スイッチによって、またはアダプタの ROM をプログラムする MS-DOS ベースのプログラムを実行して設定します。

これらのシステムでは、コントロール パネルの [ディスプレイ] オプションでデフォルトの設定を選択します。MS-DOS ベースのセットアップ プログラムは MS-DOS の下で実行しなければなりません。

Hewlett-Packard の Vectra コンピュータ上で S3 ベースのビデオ カードを使用していて問題が発生した場合は、Hewlett-Packard に連絡して BIOS EEPROM をアップグレードしてください。

Windows NT の S3 ドライバは、256、32768、65536、およびトゥルー カラーの解像度をサポートしていますが、24 bpp はサポートしていません。使用可能なモードは、S3 チップ、DAC の種類、およびアダプタ上のメモリの容量によって異なります。詳細については、S3 のマニュアルを参照してください。

14.8 VESA VGA

SuperVGA の機能を実装するために MS-DOS ベースのメモリ常駐プログラムを必要とするカードを使用する場合、標準 VGA だけがサポートされます。

14.9 ATI ドライバに関する注意事項

ATI ドライバは次のボードをサポートしています。

8514/Ultra

ATI Graphics Xpression
ATI Graphics Pro Turbo
Graphics Ultra
Graphics Ultra Pro
Graphics UltraPlus
Graphics Vantage
Graphics Wonder

Windows NT をセットアップする前に、ATI 製のインストール プログラムを実行しなければなりません。この作業が必要となるのは一度だけです。このプログラムを実行するときに、コンピュータが使用するモニタを選択します。このインストール プログラムは、選択したモニタの全解像度で動作する垂直同期周波数を設定します。インストール プログラムのバージョンによっては、すべてのモニタに対してこの設定を行うことができないものがあります。このような場合には、[Custom] モニタ オプションを選択した後、すべての解像度の同期周波数を設定します。

1 MB のグラフィックス メモリを搭載したすべての Graphics Wonder および -006 Mach32 チップ (または 68000AX) を搭載した Graphic Ultra Pro および Graphics UltraPlus では、800x600 16 bpp モードをサポートしています。

ISA バス コンピュータ上の Graphics Ultra Pro、Graphics UltraPlus、および Graphics Wonder で、アパーチャが無効になっている場合、サポートされる解像度は次のとおりです。

640x480、800x600、1024x768、1280x1024 8 bpp [256 色]
640x480、800x600、1024x768 16 bpp [65,536 色]

このサポートされる解像度およびピクセル デプスは、カード上に十分なメモリが搭載されていることを前提としています。これらのカードはすべて最低 1 MB のグラフィックス メモリを必要とします。ピクセル デプスはディスプレイ アダプタ上の DAC タイプによって決まります。サポートされていない解像度を選択したり、対応するカードが組み込まれていない場合は、ドライバによってサポートされている解像度が選択されます。

Graphics Ultra Pro、Graphics UltraPlus、および Graphics Wonder でアパーチャが有効になっている場合、サポートされる解像度は次のとおりです。

640x480 24 bpp

800x600 24 bpp (2MB の RAM および -006 Mach32 チップ (または 68000AX) 以降が必要)

AST Premmia を使用している場合は、AST 製のすべての ATI ビデオ アダプタについて ATI AST を選択します。

使用している ATI カードが選択したモードに合わせて初期化されない場合は、MS-DOS を使用してコンピュータを再起動し、ATI カードのインストール プログラムを実行して、モニタが高解像度のグラフィックスを処理できるようカードのパラメータを設定します。

14.10 Weitek P9000 ベースのビデオ カード

Weitek P9000 チップを使用しているビデオ カードの中には、セットアップ時に自動的に検出されないものがあります。Windows NT を組み込んだ後、コントロール パネルの [ディスプレイ] オプションを使用して Weitek P9000 Graphics Adapter を選択します。

14.11 ウィンドウとフルスクリーンの切り替え

256 色を使用する MS-DOS ベースのグラフィックス アプリケーションの実行時に、次のようなビデオ ボードではウィンドウとフルスクリーンの切り替えに問題が生じる場合があります。

ATI 8514 Ultra
ATI Graphics Ultra Plus
COMPAQ QVision
Diamond Viper
IBM XGA2
Trident 8900c
Trident 9000a
Video Seven VRAM(1)

フルスクリーンに切り替えた場合、表示が乱れる可能性があります。アプリケーションの実行は継続していても、グラフィックスは正しく表示されません。このような場合は、アプリケーションを終了します。アプリケーションを終了できない場合は、Windows NT に戻り、[アプリケーションの切り替え] を使用してアプリケーションを終了します。

IBM XGA2 の場合、16 色の MS-DOS ベースのグラフィックス アプリケーションでもこの問題が発生します。XGA2 システム上では、これらの問題はいずれも 640x480 モードで発生します。

15 ディスク ドライブに関する情報

ここでは、ハード ディスク ドライブおよびフロッピー ディスク ドライブについて説明します。

15.1 認識されないディスク

MS-DOS で認識されるハード ディスクまたはフロッピー ディスクが、Windows NT では認識されない場合がまれにあります。Windows NT では、パーティション テーブル フォーマットやブート ブロックなどが厳密に一致している必要があります。これによりウイルスに対する保護が強化されています。ディスクのパーティション テーブルが正しくないと考えられる場合は、次の手順に従ってください。

1. MS-DOS の実行に必要なファイルを含め、必要なデータをバックアップします。
2. ハード ディスクの場合は、最新バージョンの MS-DOS の FDISK コマンドですべてのパーティションを削除してから、作成し直します。
3. ハード ディスクまたはフロッピー ディスクをフォーマットします。

15.2 BIOS を介して作成されたボリューム セット

Windows NT は、UltraStor 124f を除いて、BIOS を介してボリューム セットを作成する (2 つの異なるドライブを 1 つのドライブ名にマージする) ディスク コントローラをサポートしていません。

15.3 ディスク コントローラおよびドライブのキャッシュ

Windows NT は、次のいずれかにあてはまる場合にのみ、ディスク コントローラおよびドライブのキャッシュをサポートしています。

- * コントローラが、特別にキャッシュをサポートするドライバを持っている (DPT、IBM SCSI Caching Adapter など)。
- * 手動設定によって、またはコンピュータ起動時のデフォルトとして、ライト スルーがアクティブになっている (ライト キャッシュが無効になっている)。
- * 手動設定によって、またはコンピュータ起動時のデフォルトとして、キャッシュ オプション全体がオフになっている。

これ以外の場合にコントローラまたはドライブのキャッシュを使用すると、キャッシュがそれ自体をフラッシュする前にコンピュータの再起動を行ったり、電源障害が発生したりした際に、データが失われる可能性があります。システムの活動がすべて停止した後、最低 1 分 (キャッシュがそれ自体をフラッシュするまでの最大時間がわかっている場合は 1 分以下でもよい) 待ってからコンピュータを再起動することによって、このリスクを最小化することができます。ディスク インジケータを見れば、システム上でライト キャッシュが行われている様子わかります。これは、シャットダウンしたときだけでなく、Windows NT の組み込み時にもあてはまります。

どのような場合でも、不意に電源障害が発生すると、データが破壊される可能性があります。また、ディスクが読み取り不能になる場合もあります。書き込みデータがキャッシュされてからディスクにフラッシュされるまでの時間をできるだけ短くすることによって、このリスクを最小にすることができます。

特定のアプリケーションは、データに依存し、ライト スルーがアクティブになっている必要があります。このようなアプリケーションには、SQL サーバー ベースのアプリケーションや NTFS パーティションがあります。

15.4 シリンダ以上の ESDI ディスク ドライブへの Windows NT の組み込み

場合によって、Windows NT が正常に組み込まれているように見えていても、Windows NT が組み込まれたハード ドライブから最初に起動したときに問題が発生することがあります。Windows NT の ブート ローダーは各種のファイルをロードし、その後で Fatal System Error: 0x0000006b と Phase 1 Process Initialization failed というメッセージを出力します。このメッセージに続いて 16 進ダンプが出力され、システムがロックされます。このような場合には、次の説明を参考にしてください。

フォーマット後の容量が 516 MB (MB=1,048,576 バイト) を超えるハード ドライブを使用する次の ESDI コントローラについてはテストが完了し、次のことが判明しています。MS-

DOS の 1024 シリンダという制限から、コントローラ上での特殊な BIOS マッピングによりドライブのジオメトリが変更されるという状況が発生します。ESDI ドライブは、トラックごとのセクタ数 (spt) について各種の値 (低レベル フォーマットの際の 53 または 63 spt ジオメトリなど) に対応できるようになっています。たとえば、異なる spt フォーマットを使用した場合のドライブの容量は次のようになります。

1024 シリンダ x 15 ヘッド x 53 spt x 512 バイト/セクタ = 398 MB フォーマット容量

または

1024 シリンダ x 15 ヘッド x 63 spt x 512 バイト/セクタ = 472 MB フォーマット容量

したがって、63 spt を使用すれば、53 spt のときより 74 MB 多くの容量が得られます。Windows NT はどちらのジオメトリにも完全に対応しており、ドライブやコントローラによっては、1024 シリンダを超える残りのシリンダにもアクセスすることが可能です。この残り領域はパーティションで区切ってフォーマットすることができますが、オペレーティング システムが MS-DOS の場合はこの領域にアクセスすることはできません。ただし、コントローラの中には、1024 を超える残りのシリンダをマップしなおして、MS-DOS から Windows NT から全領域を使用できるようにするものもあります。

1632 シリンダ x 15 ヘッド x 53 spt x 512 バイト/セクタ = 634 MB フォーマット容量

次の ESDI コントローラについては Windows NT との互換性はテスト済みです。

15.5 Data Technology Corp. (DTC) モデル 6282-24

Windows NT 互換の最大ジオメトリでは、63 spt および MS-DOS の下で 1024 シリンダの制限を使用します。Windows NT は 1024 を超えるシリンダにアクセスすることができます。このドライブで Head Mapping モードの低レベル フォーマットは実行しないでください。

15.6 DTC モデル 6290-24

Windows NT 互換の最大ジオメトリでは、63 spt および MS-DOS の下で 1024 シリンダの制限を使用します。このカードにはオンボード BIOS がないので、Windows NT は 1024 を超える残りのシリンダにアクセスすることができません。

15.7 DTC モデル 6290 SEZ (デュアル SCSI/ESDI コントローラ)

Windows NT 互換の最大ジオメトリでは、63 spt および MS-DOS の下で 1024 シリンダの制限を使用し、EISA 構成の BIOS 変換を使用します。Windows NT は 1024 を超える残りのシリンダにアクセスすることができます。

15.8 DTC モデル 6295-24

Windows NT 互換の最大ジオメトリでは、63 spt および MS-DOS の下で 1024 シリンダの制限を使用します。このモデルにはオンボード BIOS がないので、Windows NT は 1024 を超える残りのシリンダにアクセスすることができません。このドライブで Head Mapping モードの低レベル フォーマットは実行しないでください。

15.9 Adaptec モデル 2322D

最大ドライブ容量を求める方法は次のとおりです。

1. ドライブ変換とオンボード コントローラ BIOS を無効にした後、次のようにユーザー定義のドライブ タイプに実際のドライブ パラメータを指定します。

Drive Type in CMOS=48 Cylinders=1632
Heads=15 SPT=53

この結果、容量は 634 MB になります。MS-DOS は最初の 1024 シリンダしか使用できないので、398 MB が使用可能となります。Windows NT は 1024 を超えるシリンダにもアクセスできるので、これに加えて 236 MB が使用可能です。

2. このオプションを使用すると、MS-DOS および Windows NT のいずれもドライブ全体にアクセスできるようになります。コントローラ上のジャンパを Drive Splitting 用に設定します。ドライブ変換とオンボード コントローラ BIOS を無効にします。CMOS の最初の物理ドライブを次のように設定します。

Cylinders=1024 Heads=15 SPT=53

これによって、398 MB の容量が得られます。CMOS の 2 番目のドライブ (物理ドライブとして表示されます) を設定します。

Cylinders=606 Heads=15 SPT=53

これで、さらに 236 MB が得られます。Windows NT は実際にこのドライブを 2 つの物理ドライブと見なします。

15.10 UltraStor (PROM のバージョンが nnnnn-009 未満)

Windows NT 互換の最大ジオメトリでは、63 spt および MS-DOS の下で 1024 シリンダの制限を使用します。Windows NT は 1024 を超えるシリンダにアクセスすることができます。

15.11 UltraStor (PROM のバージョンが nnnnn-009 以上)

Windows NT 互換の最大ジオメトリでは、低レベル フォーマット時に Track Mapping を使用します。MS-DOS および Windows NT のいずれもドライブ容量全体にアクセスすることができます。

16 SCSI デバイス

ここでは、SCSI デバイスについて説明します。

16.1 Adaptec の BIOS 検出

Windows NT には、Adaptec の新しい BIOS 検出コードが含まれています。この検出コードによって、ほかのネットワーク アダプタやビデオ アダプタとの BIOS の競合を検出することができます。BIOS の競合が検出された場合、ドライバの問題であると解釈される多くの問題が発生することがあります。Windows NT が BIOS の競合を検出した場合、競合および競合しているアダプタに関する情報をイベント ログに書き込みます。メーカーのマニュアルを調べて BIOS を調整し、競合がなくなるようにしてください。

16.2 Windows ドライバ ライブラリのアダプタ ドライバによる Windows NT の組み込み

SCSI および独自の CD-ROM アダプタ ドライバが、Windows NT コンパクト ディスクの Windows ドライバ ライブラリに収められています。これらのドライバは、\DRVLIB ディレクトリの下のディレクトリ ツリーの中にあります。ドライバによっては、構成に関する詳細な説明が記述された README ファイルが用意されているものがあります。

組み込みを行う前に、次の説明を読んでください。

\DRVLIB アダプタ ドライバを使用して ***Windows NT*** を組み込むには

1. 現在のオペレーティング システムを使用して、Windows NT CD-ROM にアクセスし、使用するドライバを含むディレクトリに移ります。
2. そのディレクトリのすべてのファイルを A ドライブのフォーマット済みの空のフロッピー ディスクにコピーします (Windows NT セットアップでは、ドライバは A ドライブのディスクに入っていなければなりません)。このディスクに「ドライバ ディスク」というラベルを貼ります。
3. (必要に応じて) 現在のオペレーティング システムをシャットダウンし、A ドライブの Windows NT CD-ROM セットアップ ブート ディスクから再起動します。
4. カスタム セットアップと高速セットアップのいずれにするかをたずねられたら、カスタム セットアップを選択します。
5. アダプタを選択するときには、s を入力してその他の SCSI アダプタから選択します。
6. [その他 (ハードウェア メーカーから提供されるディスクが必要)] オプションを選択します。
7. セットアップによってドライバ ディスクが要求されるので、A ドライブにドライバ ディスクを挿入して [OK] ボタンをクリックします。

16.3 SCSI アダプタの置き換え

ハードウェア構成内の SCSI アダプタを別のものに置き換えたい場合は、新しいアダプタのミニポートドライバを有効にして、以前のアダプタを無効にします。

新しいブート デバイス アダプタを有効にするには

1. コントロール パネルの [デバイス] オプションを使用して、新しいアダプタのスタートアップ

アの値をブートに設定します。

2. ローダー環境のミニポート ドライバである NTBOOTDD.SYS を変更します。

このドライバは、NTBOOTDD.SYS という読み取り専用の隠しシステム ファイルで、NTLDR を含むドライブのルートにあります。ふつう、このドライブは C ドライブですが、設定によってはその他のドライブであることもあります。

コマンド プロンプトに次のコマンドを入力して、新しいミニポート ドライバを既存のドライバに上書きコピーします。(この例では、BUSLOGIC.SYS を用いるアダプタを使用しています。アダプタによって使用するドライバは異なります。)

```
attrib -r -s -h c:\ntbootdd.sys
```

```
copy %systemroot%\system32\drivers\buslogic.sys c:\ntbootdd.sys
```

```
attrib +r +s +h c:\ntbootdd.sys
```

最後の attrib 文によって、ユーザーが誤ってこのファイルを削除するのを防ぐことができます。

3. コンピュータを再起動します。

16.4 特定の SCSI デバイスに関する注意事項

ここでは、特定の SCSI デバイスに関する問題を説明します。

Microsoft による SCSI デバイスのテストでは、多くのエラーは SCSI バス上で SCSI-II のアクティブ ターミネータを使用することによって修正されました。アクティブ ターミネータの使用を推奨します。

16.5 Adaptec

Adaptec のアダプタは、ネットワーク アダプタなどのカードと競合するメモリ アドレスを使用している場合があります。この場合は、ジャンパの設定の変更によるハードウェアの再構成が必要です。

16.6 Adaptec 1510、1520、および 1522

これらのアダプタ (および SPARROW.SYS ドライバを使用するアダプタ) は、IRQ 11 に構成しなければなりません。

16.7 Adaptec AHA-1542C および Denon DRD-253

このアダプタおよびドライバは、Windows NT の下では互換性がありません。AHA-1542C はアクティブ ターミネータを必要としますが、Denon DRD-253 CD-ROM にはパッシブ ターミネータが内蔵されています。

16.8 Adaptec 1542x

これらのアダプタを Micronics VL バス マザーボードとともに使用すると問題が発生することが報告されています。

16.9 Adaptec 154x

Adaptec 154x SCSI コントローラでは、DMA の速度を設定することができません。現在、AHA154X.SYS ドライバは 5.0 MB の DMA 転送速度をサポートしています。

Adaptec AHA154xC カードを使用する場合は、ターミネータおよびケーブルについて特に注意が必要です。このカードを搭載したシステムでは、SCSI-II ケーブルや SCSI-II アクティブターミネータを使用してください。SCSI-II ケーブルは、Amphenol Quintec や Icontec から入手することができます。SCSI-II 以外のケーブルやターミネータを使用した場合は、データが破壊されるなど、動作の信頼性が得られない場合があります。

1988 年に発売が開始された Adaptec 154x の BIOS バージョン 3.08 では、Scatter/Gather 機能に問題が発生します。この問題は Adaptec のドライバによって検出され、この機能が無効になります。BIOS がこのバージョンのものである場合、Scatter/Gather 機能が無効になっていることを示すメッセージが表示されます。このメッセージが表示された場合は、Adaptec にお問い合わせの上、BIOS の最新バージョン 3.20 についての情報を入手してください。BIOS のバージョンが 3.08 より新しい場合は、この問題は発生しません。

最新の 154x BIOS では、BIOS/MS-DOS および Windows NT の下で 1 GB を越えるドライブもサポートされています。Windows NT は、拡張パーティションが使用されていれば、このアップグレードが行われていない場合でも、1 GB を超えるデバイスにアクセスすることができます。

16.10 Adaptec 1640 Micro Channel アダプタ

このリリースでは、このアダプタは Maynard 2000 や 1300 DAT ドライブをサポートしていません。1640 アダプタは IBM PS/2 Model 70 コンピュータ上ではサポートされません。

16.11 Adaptec AHA164x

AHA164x ドライバは、不必要なエラーのログを記録します。このエラーは、AHA164x に接続されたテープで Windows NT バックアップが使用されている場合に発生します。この場合、エントリは次のようになります。

```
7/10/93 2:41:40 AM AHA154x エラー なし 11 N/A [コンピュータ名]  
ドライバは \Device\ScsiPort1 でコントローラ エラーを検出しました。
```

このエントリは無視してもかまいません。また、このようなエントリが数多く生成されると、エラー ログがいっぱいになっているというポップアップ メッセージが表示されます。これを回避するには、システム イベント ログの設定を必要に応じてイベントを上書きするように設定します。

16.12 Adaptec 1740

このカードが標準モードに構成されている場合、Windows NT はこのカードを AHA-154x として検出します。このカードを拡張モードに変更する場合は、Windows NT セットアップを使用して AHA-154x ドライバを削除した後、AHA-1740 ドライバを組み込まなければなりません。このアダプタを正常に動作させるためには、アクティブターミネータの使用を推奨します。

16.13 Adaptec 2940

Adaptec 2940 (および Adaptec AIC-78xx シリーズのチップを搭載したカード) では、接続された各 CD-ROM ドライブの同期転送の ID 番号のネゴシエーションが行われたホスト アダプタがなければなりません。この作業は、Adaptec SCSI Select BIOS 構成ユーティリティによって行われます。

16.14 Buslogic

Buslogic 747 SCSI アダプタを AST Manhattan SMP コンピュータで使用する場合は、アダプタの BIOS を無効にしてください。BIOS を無効にする方法についての詳細は、アダプタのマニュアルを参照してください。このアダプタを正常に動作させるためには、アクティブ ターミネータの使用を推奨します。

16.15 COMPAQ Smart SCSI Array

このアダプタを Windows NT で正常に動作させるためには、IRQ 2 以外の割り込みを使用するように構成しなければなりません。COMPAQ パージョン 2.08 およびファームウェア パージョン 2.04 が必要です。

16.16 Dell Drive Array

このアダプタは Adaptec エミュレーション モードではサポートされません。

16.17 Future Domain 8xx

このアダプタは競合するメモリ アドレスを使用することがあります。この場合、ジャンパの設定を変更してハードウェアを再構成する必要があります。

Future Domain 845、850 および 885 アダプタをサポートする Windows NT ドライバは IRQ 5 の使用を想定しています。これらのアダプタが IRQ 5 以外の割り込みに設定されている場合、Future Domain ドライバは動作を継続しますが、ポーリングの形態をとるため、システムの動作速度が遅くなることがあります。また、Future Domain ドライバは、システムに対して IRQ 5 の使用を要求する登録を行うので、実際に IRQ 5 に設定されているほかのデバイスの動作を妨げる場合があります。上記の Future Domain アダプタのいずれかを使用する場合は、Windows NT の組み込みが正常に終了した後、レジストリにおいてこのドライバの IRQ 情報を変更してください。IRQ が正しくない場合は、このドライバはイベントのログを記録します。このログはイベント ビューアで表示することができます。

16 ビットの Future Domain カードまたは 8 ビット M シリーズ カードに外部 SCSI デバイスを接続して使用している場合は、SCSI のターミネータが正しく設定されていることを確認してください。ターミネータは、カード上のジャンパで設定します。詳細については、カードのマニュアルを参照してください。

16.18 PS/2 SCSI アダプタ

1991 年以前に製造された BIOS を持つ IBM SCSI アダプタを、Windows NT で使用できるよう構成するには、PS/2 リファレンス ディスケットのバージョン 1.12 以降を使用してくだ

さい。

IBM PS/2 SCSI アダプタは Logical Unit Number (LUN) をサポートしていません。このアダプタは、LUN を認識せずに、これらを ID と見なします。このため、このアダプタに複数の SCSI デバイスが接続されている場合、SCSI ID の競合が発生する場合があります。

16.19 Maynard SCSI アダプタ

WD33C9C SCSI ホスト アダプタ (Maynard SCSI アダプタ) に接続されたハード ディスクに Windows NT を組み込む場合、高速セットアップを使用することはできません。これは、セットアップがこのアダプタを認識できないためです。カスタム セットアップを使用すれば、このアダプタ カードを組み込むことができます。もしくは、セットアップ終了後、[メイン] プログラム グループの [Windows NT のセットアップ] を使用して、アダプタ カードを組み込むことができます。

16.20 Mylex DCE376 および Tangent 48933 USA

Tangent および Zeos 433 EISA システムに標準装備されている Mylex 376 コントローラは、デフォルトでは WD1003 エミュレーション モードで動作します。このカード用の SCSI ドライバが Windows NT で利用できるようになれば、この設定は不要になります。

16.21 NEC Intersect CD-ROM

このデバイスのリーダは、このリーダへのアクセス中の切断を有効にするスイッチが付いています。デフォルトでは、このスイッチはオフになっており、切断を無効にしています。このため、この CD-ROM から読み取りを行う間、SCSI バス上のほかのデバイスにアクセスできません。リーダからの読み取りにはかなりの時間を要するため、このスイッチをオフにしておくシステムのパフォーマンスが明らかに低下します。CD-ROM リーダを使用していない時でも、システムのパフォーマンスが低下する場合があります。この問題を回避するには、スイッチ 5 をオンにしてください。このスイッチは、SW1 とラベル表示されたスイッチの中にあります。

16.22 Plextor (Texel) DM-5024 CD-ROM

DM-5024 CD-ROM を Windows NT で使用するには、ファームウェアのレベルが 1.10C でなければなりません。このアップグレードについては、Plextor にお問い合わせください。

16.23 ProAudio Spectrum 16 TMV1

ProAudio Spectrum 16 カードの PAS-16 SCSI ドライバのデフォルトは、IRQ 15 です。

その他のアダプタは IRQ 15 を使用しないでください。Windows NT の組み込みが終了した後、コントロール パネルの [ドライバ] を使って Mediavision ProAudio Spectrum 16 アダプタ ドライバを追加することができます。その際、サウンド I/O の構成と SCSI IRQ の変更も行うことができます。

ProAudio Spectrum 16 ではテープ ドライブはサポートされていません。

16.24 PCMCIA カード

Windows NT Server 3.51 では、いくつかのモデム カード、スモール コンピュータ システム インターフェイス (SCSI) コントローラ カード、ネットワーク アダプタ カード、および ハード ディスク PCMCIA カードがサポートされるようになりました。サポートされるカード およびコンピュータについては、ハードウェア互換性リストを調べて確認してください。

サポートされている PCMCIA カードを使用するには、コンピュータをシャットダウンしてからカードを挿入します。コンピュータを再起動すると、Windows NT Server がソケット内のカードを検出します。PCMCIA カードを取り除く前にも Windows NT Server をシャットダウンしなければなりません。

サポートされている SCSI またはネットワーク アダプタ PCMCIA カードが Windows NT Server によって検出されるようにするには、まず Windows NT Server デバイス ドライバをロードするか、またはカードの挿入のために Windows NT Server をシャットダウンする前にネットワーク アダプタ カードを構成しなければなりません。

サポートされているモデム、SCSI、およびネットワーク アダプタ PCMCIA カードの使用および組み込みの確認についての詳細は、『Update Information for Version 3.51』の「PCMCIA カード」以下の節を参照してください。レジストリ エディタの使用法についての詳細は、このファイルの「レジストリの値の編集」を参照してください。

16.25 PCMCIA イベント ログ エラー

PCCARD メーカー/製品の構成情報が存在しないなどのエラーがイベント ログに書き込まれる場合は、レジストリの PCMCIA データベース キーにそのデバイスのエントリが含まれているかどうか調べてください。デバイスのエントリがない場合は、PCMCIA カード メーカーから新しいドライバを入手するか、または Microsoft PSS に連絡して、そのデバイスのエントリをレジストリに作成しなければなりません。

16.26 PCMCIA カードを有効にする

PCMCIA カードが有効になっていない場合は、コントロール パネルの [デバイス] を調べて、PCMCIA ドライバが [ブート] に設定されており、自動的に開始されていることを確認してください。コントロール パネルでは PCMCIA の自動開始が設定されているのに開始されない場合は、イベント ログでエラーの詳細を調べてください。

16.27 PCMCIA デバイスの使用

モデムやネットワーク カードなどの PCMCIA デバイスを Windows NT Workstation 上で使用する場合は、コンピュータ システムのパワー マネージメント機能は無効にしなければなりません。パワー マネージメントを無効にする方法については、メーカーのシステム マニュアルを参照してください。

16.28 Trantor

Trantor T-128 および T-130B アダプタをサポートする Windows NT ドライバは IRQ 5 の使用を想定しています。これらのアダプタが IRQ 5 以外の割り込みに設定されている場合、Trantor ドライバは動作を継続しますが、ポーリングのような動作になるため、システムの動

作速度が遅くなることがあります。また、Trantor ドライバは、システムに対して IRQ 5 の使用を要求する登録を行うので、実際に IRQ 5 に設定されているほかのデバイスの動作を妨げる場合があります。上記の Trantor アダプタのいずれかを使用する場合は、Windows NT の組み込みが正常に終了した後、レジストリにおいてこのドライバの IRQ 情報を変更してください。IRQ が正しくない場合は、このドライバはイベントのログを記録します。このログはイベント ビューアで表示することができます。

また、これらのアダプタを使用する場合は SCSI のターミネータの処理に注意が必要です。ブート時に Windows NT がハングアップしたり、Windows NT セットアップが Trantor アダプタに接続されたデバイスを認識できない場合は、SCSI のターミネータが存在し、Trantor アダプタに接続された SCSI デバイスの 1 つがターミネータ機能を提供していることを確認してください。

このリリースでは、T-128 に接続されたテープ ドライブはサポートされていません。

16.29 UltraStor SCSI コントローラ

UltraStor 14F または 24F コントローラと、サポートされている 4mm DAT テープ デバイスを使用してテープの動作に問題がある場合は、UltraStor にお問い合わせの上、これを解決するアップグレードを行ってください。

UltraStor 34F コントローラを Micronics VLB マザーボードに組み込んでいる場合は、マザーボードの外部キャッシュをオフにして使用することを推奨します。

UltraStor 124 アダプタは、交換可能メディア ドライブと互換性がありますが、ユーザーがメディアを取り外したり、交換したりすることはできません。このため、Windows NT では、このコントローラを使用している場合、交換可能メディア ドライブをサポートしません。

UltraStor 14F と DECTalk 音声合成カードを組み合わせると、I/O ポートの競合により Windows NT のセットアップに失敗する場合があります。この問題を回避するには、DEC のカードの I/O を 350 に設定するか、もしくは DECTalk カードの設定はデフォルトのままにして、ブート フロッピーから ULTRA14F.SYS ファイルを削除してください。

16.30 AT/API IDE デバイス

偶発的なバグ チェックの回避

以下の動作を行うとバグ チェックが開始されるので、避けてください。

- * ATDISK からコンピュータを起動し、ATAPI.SYS および SCSICDRM.SYS をインストールせずに AT/API (IDE) ドライブを追加する。
- * ATDISK.SYS を開始せずに、ブート ドライブとのケーブルから AT/API (IDE) デバイスを取り外す。

17 テープ デバイス

Windows NT は 50 種以上のテープ デバイスをサポートしています。

17.1 DEC TZ86、TZ87、DLT2000 ベースのテープ ドライブ

正常な動作のためには、リビジョン番号 20 (9514) のファームウェアが必要です。

Windows NT のバックアップ プログラムでは、これらのドライブによるテープ ドライブ オートチェンジャは、手動操作モード (シングル テープ) でのみサポートされています。

17.2 QIC 40/80 テープ デバイス

QIC 40/80 テープ デバイスは、コンピュータのネイティブ フロッピー コントローラに接続しなければなりません。専用のフロッピー テープ コントローラ カードはサポートされていません。ハードウェアによるデータ圧縮は、QIC 40/80 フロッピー テープ ドライブではサポートされていません。

18 非 SCSI CD-ROM ドライブ

18.1 Creative Labs CD-ROM ドライブ

「Panasonic CD-ROM ドライブ」の項を参照してください。

18.2 Mitsumi CD-ROM ドライブ

Windows NT は、Mitsumi CRMC-FX001D および Mitsumi CRMC-FX001D1 をサポートしています。

このドライブを使用するには、Windows NT セットアップの [SCSI アダプタの追加と削除] で Mitsumi CD-ROM エントリを選択してください。このドライブは、Windows NT の組み込み時に自動検出されません。手動でこのドライブを選択しなければなりません。

Mitsumi CD-ROM ドライブは、Creative Labs Sound Blaster 16 MultiCD および Mitsumi 74-1881A 16 ビット インターフェイス カードでサポートされています。

既にこのインターフェイス ボードが組み込まれている場合は、ユーザー マニュアルを調べてサポートされているインターフェイス ボードであることを確認してください。

Mitsumi ドライブのロード時にコンピュータの画面に何も表示されなくなった場合は、コンピュータに組み込まれているほかのデバイスとの I/O の競合が原因です。この問題を解決するには、システムを再構成してから、再度組み込みを行ってください。

Mitsumi ドライブは特定のイベントに対する応答が遅いため、タイミングが重視されるマルチメディア タイトルにおいてサウンドが途切れるなどの問題が発生する場合があります。リアルタイム処理が要求されない CD-ROM タイトルのアクセスに使用する場合は、問題は発生しません。

18.3 Panasonic CD-ROM ドライブ

Windows NT は、Panasonic CR-521、CR-523、CR-562、および CR-563 CD-ROM ドライブをサポートしています。

これらのドライブは、上面または底面のラベルに Panasonic、Creative Technology (Creative Labs)、または Matsushita-Kotobuki と表示されています。

また、ドライブの前面に Sound Blaster のロゴが表示されているものもあります。

このドライブを使用するには、Windows NT セットアップの [SCSI アダプタの追加と削除] で Panasonic CD-ROM エントリを選択してください。このドライブは、Windows NT の組み込み時に自動検出されないため、手動でこのドライブを選択しなければなりません。

Panasonic CD-ROM ドライブは、Creative Labs Sound Blaster Pro、Sound Blaster 16、Sound Blaster 16 MultiCD、および Panasonic (Matsushita-Kotobuki) LMEP0084B 8 ビット インターフェイス カードでサポートされています。

既にこのインターフェイス ボードが組み込まれている場合は、ユーザー マニュアルを調べてサポートされているインターフェイス ボードであることを確認してください。

このドライブはブート時のハードウェアの初期化にかなりの時間を必要とする場合があります。システムがハングしているように見えることがあります。初期化には数分間かかることがあります。更新されたドライブは、この問題が解決したときに Windows NT ドライバ ライブラリで提供する予定です。Windows NT ドライバ ライブラリの詳細については、Windows NT のハードウェア互換性リストを参照してください。

18.4 Sony 独自の CD-ROM ドライブ

Windows NT は、Sony CDU31A および CDU33A をサポートしています。

このドライブを使用するには、Windows NT セットアップの [SCSI アダプタの追加と削除] で Sony CD-ROM エントリを選択してください。

Sony CD-ROM ドライブは、Creative Labs Sound Blaster 16 MultiCD および Sony CDB-334 8 ビット インターフェイス カードでサポートされています。Sony CDB-334 は、Sony CD-ROM インターフェイス キットとともに販売されています。このキットには、外付けドライブ用のキットと内蔵ドライブ用のキットの 2 つがあります。これらのキットの Sony のパーツ番号は OPA-474E (外付け) および OPA-474I (内蔵) です。

既にこのインターフェイス ボードが組み込まれている場合は、ユーザー マニュアルを調べてサポートされているインターフェイス ボードであることを確認してください。

Sony CDB-334 のマニュアルの記述とは反対に、このボードを Windows NT で動作させるには割り込みが必要です。ジャンパを JP4 (IRQ チャンネル ジャンパ) に配置する必要があります。

19 交換可能メディア

Windows NT は、10 種以上の SCSI 交換可能メディア システムをサポートしています。

交換可能メディア ドライブ (Bernoulli Box や Syquest など) では、NTFS および FAT ファイル システムのみサポートしています。

交換可能メディアに Windows NT または Windows NT の一部を組み込む場合、あるいは、このメディアを NTFS パーティションにする場合、メディアを取り外す前に必ず Windows NT をシャットダウンしてください(シャットダウンするには、プログラム マネージャの [アイコン] メニューから [シャットダウン] を選択します)。Windows NT がシャットダウンされるまで、メディアを取り外さないでください。

19.1 フロプティカル ドライブが存在する場合の CD-ROM からの組み込み

21 MB のフロプティカル ドライブを A ドライブとして構成している場合、フロッピー ディスクによる Windows NT 3.51 のセットアップを実行することはできません。

21 MB のフロプティカル ドライブを A ドライブとして構成している場合に CD-ROM から組み込みを行うには、ディスク 1 の TXTSETUP.SIF ファイルを編集します。[SetupData] セクションの下に ForceOEMSCSI=1 という行を追加します。これによって、SCSI アダプタの検出が無効になるので、手動で適切なドライバを選択します。

19.2 PCMCIA カード

Windows NT Server 3.51 では、いくつかのモデム カード、スモール コンピュータ システム インターフェイス (SCSI) コントローラ カード、ネットワーク アダプタ カード、およびハード ディスク PCMCIA カードがサポートされるようになりましたが、PCMCIA カードおよびソケットのサポートは含まれていません。サポートされるカードおよびコンピュータについては、ハードウェア互換性リストを調べて確認してください。

サポートされている PCMCIA カードを使用するには、コンピュータをシャットダウンしてからカードを挿入します。コンピュータを再起動すると、Windows NT Server がソケット内のカードを検出します。PCMCIA カードを取り除く前にも Windows NT Server をシャットダウンしなければなりません。IDE PCMCIA ハード ディスクは、Windows NT Server を組み込む前に挿入しなければなりません。

サポートされている SCSI またはネットワーク アダプタ PCMCIA カードが Windows NT Server によって検出されるようにするには、まず Windows NT Server デバイス ドライバをロードするか、またはカードの挿入のために Windows NT Server をシャットダウンする前にネットワーク アダプタ カードを構成しなければなりません。

PCMCIA カードを挿入する前に、アプリケーションを確認するかレジストリの特定のキーを調べて、Windows NT Server が挿入されたカードを確実に検出することを確認しておくといでしょう。サポートされているモデム、SCSI、およびネットワーク アダプタ PCMCIA カードの使用および組み込みの確認についての詳細は、『Update Information for Version 3.51』の「PCMCIA カード」以下の節を参照してください。レジストリ エディタの使用法についての詳細は、このファイルの「レジストリの値の編集」を参照してください。

このアダプタのデフォルトは IRQ 15 であるため、ほかのアダプタと競合する場合があります。

この CD-ROM ドライブを使用していないにもかかわらず、Windows NT のセットアップ時に問題が発生した場合は、このアダプタを取り外して Windows NT セットアップを再起動しなければなりません。Windows NT の組み込みが終了した後、再度このアダプタを組み込みます。

20 マルチポート シリアル アダプタ

Windows NT は、10 種以上のマルチポート シリアル アダプタをサポートしています。高性能 DigiBoard Adapter も Windows NT でサポートされています。Control Hostess または Stargate Technologies のダム マルチポート シリアル アダプタを使用する場合は、ハードウェア ベンダからドライバを入手するか、使用するカードをサポートするようレジストリを変更する必要があります。レジストリを変更する場合は、次の手順に従ってください。

Windows NT でマルチポート シリアル アダプタの構成を行うには

1. コンピュータ上でアダプタが使用する IRQ およびポート アドレスが正しいことを確認します。
2. メーカーのマニュアルの指示に従ってアダプタを組み込みます。
3. レジストリ エディタを使用して、次のキーを開きます。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Serial\Parameters
レジストリ エディタの使用法の詳細については、このファイルの「レジストリの値の編集」を参照してください。
4. 下記の表から適切な Serial* キーを Parameters に追加し、各 Serial* キーに対応する値を追加します。
実際のアダプタの値は、これとは異なっている場合があります。また、コンピュータ上にシリアル ポートが 1 つしかない場合は、まず、Serial1 および Com2 を試してみてください。コンピュータ上にシリアル ポートがない場合は、Serial0 および Com1 を試してみてください。
5. コンピュータ上にシリアル ポートがない場合は、次のキーに下記の値を追加する必要があります。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Serial

追加する値の名前	データ タイプ	データ
ErrorControl	REG_DWORD	1
Group	REG_SZ	Extended base
Start	REG_DWORD	2
Type	REG_DWORD	1

6. REGEDT32.EXE を終了し、変更を有効にするために次の 2 つのコマンドを入力します。

net stop serial

net start serial

これでシリアル ポートが動作するはずですが、変更を有効にするには、Windows NT を再起動する方法もあります。

COM1 から COM9 までは、ファイル名のようにプログラムまたはコマンド ラインから直接参照されます。しかし、COM10 以上の COM ポートは次の構文によって参照されます。

\\.\com10

コマンド ラインの **mode** コマンドは COM10 以上を認識しません。

ここで紹介するすべてのサンプル設定では、2 つのシリアル ポートが使用可能で、レジストリに Serial0 および Serial1 としてリストされており、それぞれ COM1 および COM2 に割り当てられていることを前提としています。新たにポートを追加する場合は、COM3 以降が割り当てられます。4 つ以上のポート アダプタを使用する場合は、必要な回数だけ同じ操作を繰り返してください。次の各設定の値は、最初の 2 つのポートのいずれかにシリアル マウスが接続されている場合も有効です。

Hostess 4 ポート アダプタ、IRQ 2、開始ポート アドレス 500、COM3 の場合

追加キー (no class)	値の名前	データ タイプ	データ
Serial2	PortAddress	REG_DWORD	0x500
	Interrupt	REG_DWORD	2
	DosDevices	REG_SZ	
COM3	PortIndex	REG_DWORD	1
	InterruptStatus	REG_DWORD	
	0x507		
Serial3	PortAddress	REG_DWORD	0x508
	Interrupt	REG_DWORD	2
	DosDevices	REG_SZ	
COM4	PortIndex	REG_DWORD	2
	InterruptStatus	REG_DWORD	
	0x507		
Serial4	etc.	etc.	etc.

DigiBoard 4 ポート アダプタ IRQ 2、開始ポート アドレス 100、COM3 の場合

追加キー (no class)	値の名前	データ タイプ	データ
Serial2	PortAddress	REG_DWORD	0x100
	Interrupt	REG_DWORD	2
	DosDevices	REG_SZ	
COM3	PortIndex	REG_DWORD	1
	InterruptStatus	REG_DWORD	
	0x140		
	Indexed	REG_DWORD	

1				
Serial3	PortAddress	REG_DWORD	0x108	
	Interrupt	REG_DWORD		2
	DosDevices	REG_SZ		
COM4				
	PortIndex	REG_DWORD		2
	InterruptStatus	REG_DWORD		
0x140				
	Indexed	REG_DWORD		
1				
Serial4	etc.	etc.	etc.	
Serial5	etc.	etc.	etc.	

DigiBoard アダプタにはバッファ サイズの制限があり、Procomm Plus などの Windows の通信アプリケーションが正常に動作しない場合があります。この問題を回避するには、アプリケーションのバッファ サイズを 8K 以下に設定します。

StarGate 4 ポート アダプタ、IRQ 2、開始ポート アドレス 180、COM3 の場合

追加キー (no class)	値の名前	データ タイプ	データ
Serial2	PortAddress	REG_DWORD	0x180
	Interrupt	REG_DWORD	2
	DosDevices	REG_SZ	
COM3			
	PortIndex	REG_DWORD	1
	InterruptStatus	REG_DWORD	
0x580			
Serial3	PortAddress	REG_DWORD	0x188
	Interrupt	REG_DWORD	2
	DosDevices	REG_SZ	
COM4			
	PortIndex	REG_DWORD	2
	InterruptStatus	REG_DWORD	
0x580			
Serial4	etc.	etc.	etc.
Serial5	etc.	etc.	etc.

21 マウスおよびその他のポインティング デバイス

Windows NT は、30 種以上のマウス、およびその他のポインティング デバイスをサポートしています。Windows NT には、様々なタイプのマウスをサポートする 4 つのマウス ポートドライバが含まれています。

21.1 シリアル マウス (SERMOUSE.SYS ドライバ)

シリアル マウスは COM1 または COM2 に接続します。このドライバは、シリアル トラッ

クボールもサポートしています (デフォルトの右利き用トラックボールの第 1/第 2 ボタンをサポート)。右利き用/左利き用のボタンの選択をサポートするトラックボール専用のドライバは、Windows ドライバ ライブラリの中でリリースされる予定です。

x86 ベースのコンピュータでは、シリアル マウスは自動的にサポートされます。RISC ベースのコンピュータでは、シリアル マウスは検出されない場合がありますが、サポートは行われません。

RISC ベースのコンピュータ上でシリアル マウスを有効にするには、次のいずれかをレジストリに追加します。

OverrideHardwareBitstring:REG_DWORD:0x1

または

OverrideHardwareBitstring:REG_DWORD:0x2

値 0x1 はマウスが COM1 に接続されているときに使用し、値 0x2 はマウスが COM2 に接続されているときに使用します。この値は、次のレジストリ キーにあります。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Sermouse\Parameters

レジストリの編集についての詳細は、このファイルの「レジストリの値の編集」を参照してください。

21.2 Microsoft InPort バス マウス (INPORT.SYS ドライバ)

Microsoft InPort バス マウスは、x86 ベースのコンピュータでサポートされています。このマウスは、円形の 9 ピンのコネクタで、Microsoft InPort Adapter に接続します (アダプタ側のコネクタはメス型)。このマウス自体は、「InPort Mouse」または「Bus Mouse」と表示されています。しかし、InPort バス マウスは、次の項で説明する BUSMOUSE.SYS でサポートされるバス マウスと同じではありません。

InPort アダプタのジャンパは、手動で設定しなければなりません。Windows NT での標準的な設定は次のとおりです (IRQ 3 や IRQ 4 は COM ポートと競合し、IRQ 5 はネットワークカードで使用されることが多いため、ここでは IRQ 2 を選択しています)。

J2 NORMAL (v. XT SLOT 8)

J3 PRI. INPORT (v. SEC. INPORT)

J4 INTERRUPT 2 (v. 3 または 4 または 5)

21.3 バス マウス (BUSMOUSE.SYS ドライバ)

バス マウスは x86 ベースのコンピュータでサポートされています。このマウスは、四角い 9 ピンのコネクタで、Microsoft または Logitech のバス マウス アダプタに接続します (アダプタ側のコネクタはメス型)。Microsoft バス マウスの旧バージョンは、ボタンが緑色で、ボールが金属製のものです。このマウスは InPort バス マウスと同じではありません。Logitech のバス マウスは、通常、「MouseMan Bus」と表示されています。

バス マウス アダプタのジャンパの 1 つを手動で設定して、IRQ を選択しなければなりません。IRQ 3 や IRQ 4 は COM ポートと競合し、IRQ 5 はネットワーク カードで使用されることが多いため、通常、Windows NT では IRQ 2 を選択します。

21.4 Mouse Port または PS/2 マウス (I8042PRT.SYS ドライバ)

Mouse Port マウス (あるいは PS/2 マウス) は x86 ベースのコンピュータおよび RISC ベースのコンピュータでサポートされています。このマウスは、Intel 8042 (または Intel 8742) 補助デバイスのように、マシンに内蔵された円形の 6 ピン コネクタに接続します。キーボードも Intel 8042 に接続され、このドライバによってサポートされています。

I8042PRT.SYS ドライバは Mouse Port トラックボールもサポートしています。デフォルトの右利き用トラックボールの第 1/第 2 ボタンがサポートされています。右利き用/左利き用のボタンの選択をサポートするトラックボール専用のドライバは、Windows ドライバ ライブラリの中でリリースされる予定です。

Mouse Port マウスは x86 ベースのコンピュータおよび RISC ベースのシステムで自動的にサポートされます。このマウスは、RISC ベースのコンピュータの標準ポインティング デバイスです。

21.5 複数のポインティング デバイスおよびその他のポインティング デバイスのサポート

Windows NT は、複数のマウスおよびポインティング デバイスの同時使用をサポートしています。しかし、これはデフォルトのサポートではありません。Windows NT セットアップは、起動時にポインティング デバイスのドライバを 1 つしかロードしません。

Windows NT には、タブレット、タッチスクリーンなど、その他のポインティング デバイス用のドライバは含まれていません。これらのデバイスの Windows NT 対応ドライバについては、各ハードウェア ベンダにお問い合わせください。

22 サウンド

サウンド デバイスの構成は、Windows NT セットアップを実行した後に行います。ここでは、Sound Blaster、Media Vision Pro Audio Spectrum 16、および Windows Sound System を Windows NT に組み込んで使用方法を説明します。

サウンド カードを使用すると、IRQ または DMA チャネルがほかのデバイスと競合する場合があります。必要に応じて、コントロール パネルの [ドライバ] ツールを使用して再構成することができます。

22.1 Sound Blaster

このサウンド カードの推奨設定は次のとおりです。

DMA 0、1 または 3 (構成可能。Sound Blaster Pro および Sound Blaster 16 を除いて 1

でなければなりません。)

さらに、Sound Blaster 16 の場合は、第 2 DMA チャンネルが必要です。DMA 5、6 または 7 を使用することができます。DMA 5 は、通常、SCSI アダプタのシステムで使用されます。

Sound Blaster のデフォルト IRQ は 5 ですが、2、7 または 10 を設定することもできます。IRQ 7 は、Dell のマシン上で競合し、サウンドが繰り返される場合があります。

ポート I/O アドレスの範囲は 220h から 280h までです。デフォルトの設定は、220h です。

ほかのデバイスと IRQ が競合することがあります。この場合は、ほかのデバイスまたはサウンド カードの IRQ 設定を変更してください。このサウンド カードのデフォルトの設定は、DMA 1、IRQ 7 およびポート 220h です。Sound Blaster 16 の場合は、競合する DMA および IRQ を変更してみてください。以前の Sound Blaster カードの場合は、物理的にカードの DMA チャンネルを変更するか、IRQ 2 に変更し、その後、コントロール パネルで Creative Labs Sound Blaster ドライバを IRQ 2 に再構成してください。

以前の (8 ビットの) Sound Blaster ボードを使用して、Windows NT の下で正常にサウンド出力を行うには、DSP 2.0 以降が必要です。

Sound Blaster ドライバの組み込みおよび構成を行うには

1. Windows NT を起動し、管理者としてログオンします。
2. コントロール パネルを開き、[ドライバ] アイコンをダブルクリックします。
3. [ドライバの設定] ダイアログ ボックスで [追加] ボタンをクリックします。
4. [ドライバの追加] ダイアログ ボックスで、[Creative Labs Sound Blaster 1.x] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
5. 構成ダイアログ ボックスで、適切なポートを選択して [続行] ボタンをクリックします。
6. このポート番号が正しく、カードが検出された場合は、新しいダイアログ ボックスに、このカードの構成パラメータの一覧が表示されます。この一覧には、割り込み番号、(Sound Blaster Pro および Sound Blaster 16 の場合) DMA チャンネル番号、および Sound Blaster 16 の場合は 16 ビット DMA チャンネル番号および MPU401 アドレスが表示されます。
一般的なデフォルトの設定は、割り込み番号 IRQ 7、およびポート 220 です。しかし、コンピュータ上のほかのデバイスとの競合を避けるため、この設定の変更が必要な場合があります。
7. コンピュータを再起動するかどうかをたずねるメッセージが表示されたら、[再起動する] をクリックします。

22.2 Pro Audio Spectrum-16

Pro Audio Spectrum-16 には、Sound Blaster をエミュレートするオプションがあります。

このエミュレーションは、Windows NT ではサポートされていません。Pro Audio Spectrum-16 を組み込んでいる場合は、このオプションと同じ割り込み番号を使用しないでください。システムが予期しない動作をする場合があります。

初期のカードでは、この割り込みのデフォルトは 5 で、ジャンパの設定により 2、3、5、7 に変更することができます。ジャンパがない最近のカードでは、デフォルトは、通常、7 に設定されています。このカードを Windows NT の下で組み込む前に、カードのマニュアルで確認してください。

Digital DECpc AXP 150 で最適な動作を行うためには、Pro Audio Spectrum-16 カードをチャンネル 5 またはチャンネル 7 のいずれかを使用して組み込まなければなりません。この制限は、ほかの Alpha AXP モデルには適用されません。

MS-DOS または Windows 3.1 で Sound Blaster エミュレーション モードを使用しない場合は、この機能を無効にすることを推奨します。詳細については、『Pro Audio Spectrum-16 User Guide』の Appendix A の「Changing I/O Address for Sound Blaster Compatibility」を参照してください。

Pro Audio Spectrum-16 の組み込みおよび構成を行うには、Sound Blaster の項で説明した手順に従ってください。

22.3 Windows Sound System

Windows NT 3.51 は、Windows Sound System およびそのユーティリティをサポートしています。また、プログラム マネージャの [アクセサリ] グループには、サウンド レコーダー およびボリューム コントロールの別バージョンが含まれています。

Windows Sound System ドライバの組み込みおよび構成を行うには

1. Windows NT を起動し、管理者としてログオンします。
2. コントロール パネルを開き、[ドライバ] アイコンをダブルクリックします。
3. [ドライバの設定] ダイアログ ボックスで [追加] ボタンをクリックします。
4. [ドライバの追加] ダイアログ ボックスで、[Windows Sound System] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
5. Windows NT セットアップ CD-ROM を挿入するか、または適切なフロッピー ディスクを A ドライブに挿入します。
6. Windows NT が提示したデフォルトの設定を選択します。この操作は、実際のハードウェアの設定によって異なります。まれに、正しく検出されない場合があります。
7. コンピュータを再起動するかどうかをたずねるメッセージが表示されたら、[再起動する] をクリックします。

22.4 RISC ベースのコンピュータ上でのサウンド

RISC ベースのシステムの中には、サウンド機能を内蔵しているものがあります。たとえば、次のようなシステムではサウンド ドライバを使用することができます。

Olivetti M700-10

Acer ARC1

MIPS ARCSytem Magnum または Millennium PC-50

MIPS ARCSytem Magnum または Millennium SC-50

前の項で説明した手順に従って、これらのドライバのいずれかを組み込みます。しかし、構成の設定を変更する必要はありません。

23 ビデオ キャプチャ

いくつかのビデオ キャプチャ ドライバは、Windows NT コンパクト ディスクの Windows ドライバ ライブラリに収められています。これらのドライバは、\DRVLIB ディレクトリの下でのディレクトリ ツリーにあります。ドライバによっては、構成情報を記述した README ファイルが添付されているものがあります。

24 アプリケーションに関する注意事項

ここには、Windows NT 3.51 上での Windows 3.1 ベース、Windows NT 3.1 ベースおよび MS-DOS ベースのアプリケーションを実行する際の一般的な情報が記述されています。Windows NT 3.51 は、これらのアプリケーションについて優れたサポートを行います。問題が発生した場合の解決方法のいくつかは、ここで説明しています。

24.1 圧縮ファイルを Windows NT 3.5 で表示させる場合

バージョン 3.5 以前の Windows NT を実行している場合は、Windows NT 3.51 にアップグレードするか、サービス パック 2 を組み込むまで、圧縮ファイルを表示させることはできません。

24.2 Windows NT で作成したファイルを Windows 3.x で開く場合

Windows NT 上で MS-DOS または Windows 3.1 ベースのアプリケーションを使用してファイルを作成した場合、このファイルを Windows 3.x で使用するとき「Cannot find WINSPOOL.DRV」というエラーが表示されることがあります。このエラーは、いくつかの 16 ビットのアプリケーションが作成するファイルにドライブの位置情報を付加するために発生します。

エラー メッセージ ダイアログ ボックスの [Close] ボタンをクリックし、このファイルを関連付けられたアプリケーションで保存すると、Windows 3.x でこのファイルを使用してもエラーが表示されなくなります。すべてのアプリケーションとファイルについてこのエラーが表示されないようにするには、\WINDOWS\SYSTEM ディレクトリに WINSPOOL.DRV というファイルを作成します。このファイルは実際には使用されないため、ファイルの内容は関係しません。

24.3 シリアル通信アプリケーションの実行

高いポーレートで信頼性の高いデータ転送を行うには、フロー制御をサポートする通信プロトコルを使用してください。フロー制御をサポートしないプロトコルを使用して信頼性の高い通信を行うためには、シリアルポートのポーレートを低くしなければならない場合があります。次の表はどのプロトコルがフロー制御をサポートしているかを示したものです。

プロトコル	フロー制御
ASCII (Xon/Xoff)	なし
XMODEM	あり
XMODEM-1K	あり
YMODEM	あり
YMODEM-G ¹	なし
ZMODEM ²	なし
Kermit	あり
CompuServe B+	あり

¹ 「-G」オプションを指定すると、フロー制御が無効になります。

² ZMODEM でも、フロー制御を行うことができるアプリケーションがあります。たとえば、Procomm Plus 2 では転送方法を「4K WINDOW」に設定することによって、フロー制御を有効にすることができます。

Windows NT は、通信ドライバ COMM.DRV を使用する 16 ビットの Windows 通信プログラムをサポートしています。その他の通信ドライバはサポートされていないため、信頼性が得られない場合があります。レジストリ エディタを使用して通信ドライバの確認および変更を行うことができます。レジストリの値は次のようになっていなければなりません。

```
comm.drv:REG_SZ:comm.drv
```

この値は次のレジストリ キーに置かれています。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\WOW\boot
```

レジストリ エディタの使用方法の詳細については、このファイルの「レジストリの値の編集」を参照してください。

複数の 16 ビットの通信アプリケーションを同時に実行する場合、すなわち、16 ビットの通信アプリケーションをバックグラウンドでまたはアイコン化して実行し、信頼性の高い接続を行うには、コントロール パネルの [システム] をダブルクリックします。[マルチタスク] ボタンをクリックし、[マルチタスク] ダイアログ ボックスで [フォアグラウンドとバックグラウンド同等] を選択して [OK] ボタンをクリックします。

Procomm Plus for Windows

Procomm Plus に実装されているアップロード用の XMODEM プロトコルは、低速の 386 ベースのマシンで Windows NT を実行しているときには、期待どおりのスループットが得られない場合があります。

一般的に、486 ベースのコンピュータでの転送に ZMODEM プロトコルを使用する場合は、問題は発生しません。低速のコンピュータで、ZMODEM によるダウンロードのスループットおよび信頼性を向上させるには、16 ビット CRC および 4K スライディング ウィンドウを使用してみてください。

低速のコンピュータでの ZMODEM を使用したアップロードおよび XMODEM を使用したダウンロードは、ポーレートが高い場合でも期待どおりのパフォーマンスが得られます。

24.4 MS-DOS ベースのリモート制御アプリケーションの実行

リモート制御アプリケーションは、シリアル通信を介してローカル コンピュータからリモート コンピュータを制御します。ローカル コンピュータは、キー ストロークをリモート コンピュータに送信し、リモート コンピュータの画面のコピーを表示するプログラムを実行します。リモート コンピュータは、メモリ常駐型プログラムを実行し、ローカル コンピュータからの制御を受け付けます。リモート コンピュータで Windows NT を実行している場合は、独自のスタートアップ ファイルおよび独自の PIF を作成し、このメモリ常駐型プログラムの MD-DOS 環境をセットアップしなければなりません。

スタートアップ ファイルを作成するには

1. AUTOEXEC.NT ファイルおよび CONFIG.NT ファイルを開いて次の項目を追加した後、各ファイルに新しい名前を付けて保存します。
2. 独自の AUTOEXEC ファイルには、PIF の実行時に起動したいメモリ常駐型プログラムの名前を追加します。
3. 独自の CONFIG ファイルには、**dosonly** コマンドおよび **echoconfig** コマンドを追加します。**dosonly** コマンドによって、メモリ常駐型プログラムを無効にするようなプログラムは起動できなくなります。

PIF を作成するには

1. [メイン] プログラム グループの [PIF エディタ] をダブルクリックし、_DEFAULT.PIF ファイルを選択します。
2. [PIF エディタ] ダイアログ ボックスの [プログラムのファイル名] ボックスに `command.com` と入力します。
3. [詳細設定] ダイアログ ボックスの [高速に貼り付け] チェック ボックスをオフにします。
4. [Windows NT オプション] ダイアログ ボックスで、作成した独自のスタートアップ ファイルの名前を指定します。
5. このファイルに新しい名前を付けて保存します。

PIF および独自のスタートアップ ファイルの作成の詳細については、『システム ガイド』の「そのほかのアプリケーション環境」の章を参照してください。

24.5 アプリケーション独自のマウス ポインタ

MS-DOS ベースのアプリケーションの中には Windows NT で使用するシステム マウス ポインタと同期できないマウス ポインタを使用しているものがあります。MS-DOS ベースのアプリケーションでマウス ポインタがユーザーの思いどおりに動かない場合は、システム ポインタを隠します。これによって、マウス ポインタの制御をそのアプリケーションに戻すことができます。

- * システム マウス ポインタを隠すには、Alt + スペース キーを押してコントロール メニューを表示し、そこで[マウス ポインタを隠す]を選びます。アプリケーションが文字ベースモードとグラフィック モードを切り換えるものであれば、もう一度システム ポインタを隠さなくてはならないこともあります。

システム マウス ポインタを隠すと、マウスはアプリケーション ウィンドウ内でのみ使うことができなくなります。

- * システム マウス ポインタを表示するには、Alt + スペース キーを押してコントロール メニューを表示し、そこで [マウス ポインタを表示] を選びます。
または
Alt + Tab キーを押して別のアプリケーションに切り替えるか、Ctrl + Esc キーを押して [アプリケーションの切り替え] に切り替えます。

24.6 MS-DOS ベースのマルチメディア アプリケーションの実行

すべての MS-DOS ベース (および多くの 16 ビット Windows ベース) のマルチメディア アプリケーションは、関連するハードウェアに直接アクセスすることによって処理を行っています。サウンド カードなど、ほとんどのマルチメディア用のハードウェアへの直接アクセスはサポートされていません。したがって、このような方法でハードウェアにアクセスするアプリケーションを正常に実行することはできません。結果は各アプリケーションのエラー処理の方法によっても異なりますが、一般的には、アプリケーションのマルチメディアの処理を行う部分以外は動作しますが、動作速度は遅くなる場合があります。

24.7 RISC ベースのコンピュータ上でのアプリケーション サポートの制限

RISC ベースのコンピュータ上では、Windows NT は 80286 命令セットのエミュレーションを行います。80386 命令セットに依存するアプリケーションはサポートされません。

24.8 Microsoft Word for Windows

コンピュータで使用するプリンタを Windows NT を組み込んでから一度も設定していないとき、Microsoft Word for Windows を起動しようとするとき、「メモリ不足です」というエラーメッセージが表示され起動に失敗します。コントロール パネルの [プリンタ] オプションまたはプリント マネージャを使用して、そのコンピュータで使用するプリンタを作成するか、ネットワーク上のプリンタに接続してください。一度プリンタを設定すれば以後このエラーは発生しません。

24.9 Windows 3.1 および MS-DOS ベースの英語版アプリケーションについての

情報

ここでは、Windows 3.1 および MS-DOS ベースの英語版アプリケーションを Windows NT 英語版上で実行した際の、アプリケーションに特有の問題について記述します。各アプリケーションについて、発生する可能性のある問題を説明し、できるかぎりその解決方法を示しています。これらの問題は日本語版でも同様に発生する可能性があります。説明はアルファベット順になっています。

さまざまなマルチメディア アプリケーション

以前のアプリケーションの中には、16 ビット Video for Windows の旧バージョンのランタイムを組み込むものがあります。これは、ビデオを再生する他の 16 ビット アプリケーションがある場合に、システム障害を引き起こす可能性があります。

プログラム マネージャの [アクセサリ] グループから [メディア プレーヤー] を起動すると、レジストリが変更されているというメッセージが表示され、修正できるようになります。ここで修正してください。

Intel Indeo 圧縮ムービーを連続して何千本も再生するアプリケーション

システムの仮想メモリが不足し、警告ポップアップが表示される場合があります。

この問題は Indeo codec と、その関連ランタイムに関するものです。これについては現在調査中であり、修正済みのバージョンは、利用可能になり次第 CompuServe および Microsoft の FTP サーバーに置かれる予定です。それまでは、連続して数千本のムービーを再生した後で、32 ビット アプリケーションの場合はいったん終了してください。16 ビット アプリケーションの場合は、いったんログオフしてからもう一度ログオンしてください。

Adobe Photoshop

Adobe Photoshop 2.5 を使用する場合は、256 色を使用していてグレイ スケール ファイルを開こうとすると、イメージ ウィンドウが正しく更新されない場合があります。また、パターン ファイル (*.AI) のロードに失敗する場合があります。次のようなメッセージが表示されます。

Could not open C:\PHOTOSHOP\PATTERNS\[FILENAME].AI because Photoshop was unable to parse the PostScript.

ダイアログ ボックスで [OK] をクリックすれば Photoshop での作業を続行できますが、指定したパターン ファイルにアクセスすることはできません。

その他のウィンドウでも、ファイルの復元などの操作でカラー パレットを変更すると、再描画が正しく行われない場合があります。

Photoshop でパターン ファイル (*.AI) をロードすると、アプリケーションが実行できない場合があります。

After Dark

Ctrl+Esc キーを押して [アプリケーションの切り替え] ダイアログ ボックスを表示すると、After Dark のジャーナル レコードが破壊され、キーボードやマウスの操作が認識されなくなり、コンピュータが使用中であっても、スクリーン セーバーが起動します。Ctrl+Esc キーを押した場合は、After Dark をいったん終了してから再起動します。

Aldus Persuasion

AVI クリップを埋め込もうとすると、アプリケーションがクラッシュします。オーディオ クリップは埋め込んだり再生することができますが、ビデオ クリップはできません。

AutoCAD Release 11 286

AutoCAD の Autolisp 拡張機能 (EXTLISP.EXE) は、VCPI を必要とするため、サポートされていません。

AutoCAD Release 12

再描画およびカット アンド ペーストなどのその他のグラフィック操作を正常に行うには、適切な AutoCAD ビデオ ドライバを使用しなければなりません。AutoCAD を組み込んだときのデフォルトのビデオ ドライバは、Windows Accelerated Display Driver ADI 4.2 - by Autodesk, Inc (#1) です。このドライバを使用した場合、カット アンド ペーストおよびウィンドウの再描画などの操作で問題が発生します。Windows driver - by Autodesk, Inc (#2) を使用すると、これらの操作は正常に行われます。

Autodesk 3D Studio, Release 2

3D Studio はサポートされていません。プロセッサをプロテクト モードで実行しようとする、このアプリケーションは実行できません。

Autodesk Generic CADD 6.0

Windows NT では、Generic CADD 6.0 の画面の解像度は 640x480 VGA に制限されます。このアプリケーションを使用するには、Generic CADD 6.0 構成ユーティリティ (CONFIG.EXE) で IBM VGA (Video Graphics Array) & compatibles ビデオ グラフィック ス ディスプレイを選択します。

Borland C++ 4.0

16 ビット 文字モードのデバッガ (TD.EXE) はサポートされていますが、16 ビット Windows ベース のデバッガ (TDW.EXE) はサポートされていません。Borland Online Books は、表示するときに Adobe Type Manager (ATM) を結合するため、表示することができません。ATM は Windows NT ではサポートされていません。

Borland Pascal with Objects 7.0

Turbo Debugger および WinSight はサポートされていません。

Borland Turbo Pascal for Windows

16 ビット 文字モードのデバッガ (TD.EXE) はサポートされていますが、16 ビット Windows ベース のデバッガ (TDW.EXE) はサポートされていません。

Broderbund KidPix for Windows 1.0

印刷するプリンタのポート名が 12 文字を超えていると、このアプリケーションは印刷に失敗することがあります。この問題を回避するには、印刷する前に、プリント マネージャを使用して [プリンタ情報] ダイアログ ボックスの [印刷先] ボックスに示されている印刷先のプリンタの名前が 12 文字以下であることを確認します。

Broderbund Grandma and Me

このアプリケーションは Windows NT で動作します。しかし、インストール プログラムは Windows NT では動作しません。代わりに、プログラム マネージャを使用してアイコンを作成してこのプログラムを実行します。

Broderbund Myst

イントロ ビデオと、ゲーム内のいくつかのムービーは再生されません。これは Myst の問題であり、Broderbund によって解決されています。アップデートされたバージョンについては、Broderbund にお問い合わせください。

CA SuperProject

フル ドラッグが有効になっている場合は、CA SuperProject for Windows のメイン ウィンドウのサイズを変更することはできません。フル ドラッグを無効にするには、コントロール パネルを使用します。

cc:Mail

環境変数 PATH は 143 文字よりも長くすることはできません。このような場合、cc:Mail で一般保護違反が発生します。Windows NT によって使用されるパスは、Windows NT パス設定によって作成し、このパスをコンピュータの AUTOEXEC.BAT ファイルに追加することによって作成されます。パスの長さを短くしてコンピュータを再起動します。

cc:Mail for Windows を組み込む場合、CONFIG.SYS ファイルがないと MSCONSTF.DLL で一般保護違反が発生します。Windows では CONFIG.SYS が必要ですが、Windows NT では必要ありません。cc:Mail セットアップ プログラムは CONFIG.SYS を検索し、このファイルが存在しないとこの違反が発生します。Windows NT をシャットダウンし、ブート ドライブのルート ディレクトリに CONFIG.SYS という名前のファイルを作成します。このファイルの内容は、関係ありません。

cc:Mail の組み込み時にシステム マウス ポインタを使用すると、キーボードがロックする場合があります。この問題を回避するには、システム マウス ポインタが表示されないようにするか、あるいはインストール プログラムをフルスクリーンで実行してください (x86 ベース

のコンピュータのみ)。マウス ポインタを表示しないようにするには、このファイルの「アプリケーション独自のマウス カーソル」で説明した方法に従ってください。

cc:Mail メッセージに付加された MID ファイルをダブルクリックしても、メディア プレーヤーは起動しません。メッセージに付加された MID ファイルを再生するには、この MID ファイルをメッセージとは別に保存し、メディア プレーヤーでこのファイルを開きます。

Chessmaster 3000

Chessmaster の配布ディスクはコピー保護されているため、Windows NT ではこのアプリケーションを組み込むことはできません。

Commute

Commute は、独自の PIF および独自のスタートアップ ファイルを使用して起動します。PIF を作成するときには、[詳細設定] の [高速に貼り付け] チェック ボックスを必ずオフにしておきます。詳細については、このファイルの「MS-DOS ベースのリモート制御プログラムの実行」を参照してください。

CompuServe Information Manager (CIM)

MS-DOS ベースの CIM では、起動時に COM1 から COM4 にアクセスしようとします。これらのポートがいずれも組み込まれていない場合、または、既に使用されている場合、「アプリケーションで要求した COM ポートをオープンできません。」というエラー メッセージが表示される場合があります。使用できないポートにモデムが組み込まれている場合以外は、このメッセージは無視してかまいません。

Copydoubler (Macintosh アプリケーション)

既存のフォルダの「fast replace」を実行するとき、Copydoubler は誤って最初のディレクトリが存在しないと想定し、サーバー上にこのディレクトリを再作成しようとするため、Error 48 (DuplicateFileName) が発生します。その他のコピーのエラーは、Windows NT の Macintosh がアクセス可能なボリュームでこのプログラムを使用した場合に発生することがあります。

Corel Draw 4.0

[ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選ぶと、「Not enough disk space」というエラーが表示される場合があります。これは、このアプリケーションが Windows NT でサポートされていない独自の 16 ビット ドライブをロードしようとしたことが原因です。この問題を解決するには、[Image Header] オプションで [None] または [Only Mono Formats] を選択します。

Corel Ventura 4.2

RISC ベースのコンピュータでは、Ventura Setup2 プログラムは KRNL286 のセグメントの制限を超えてアクセスするため、一般保護違反が発生します。この問題を回避するには、Custom Install を使用して Examples および Design Galleries オプションをオフにします。

組み込みが終了した後、手動でこれらのファイル (スタイル シートなど) をコピーすることができます。

Eicon Access

Eicon Access の実行方法については、『セットアップ ガイド』の第 2 章の「Windows ベースのメインフレーム接続ソフトウェアの実行」を参照してください。

Extra! for Windows

Extra! の実行方法については、『セットアップ ガイド』の第 2 章の「Windows ベースのメインフレーム接続ソフトウェアの実行」を参照してください。

F-19 Stealth Fighter

このアプリケーションはサポートされていません。

Fastback 6.0 for DOS

表示およびマウスの問題が生じた場合は、[Screen Mode] を [Flat Color] に変更し、[Show Mouse] を [Block] に変更することによって、3-D を無効にしてみてください。

Filewalk

Microsoft Multimedia Development Kit CD-ROM に含まれている FILEWALK.EXE (バージョン 1.0A CDRM 566200) は直接ディスクにアクセスするためサポートされていません。このアプリケーションの動作バージョン (S/B 1.0, CDRM 837500) を Microsoft から入手することができます。

Intergraph G91 ディスプレイ アダプタ

Windows NT 3.51 に付属の Weitek 互換のディスプレイ ドライバは、現時点では、Intergraph G91 ディスプレイ アダプタを持つ Intergraph TD-5 コンピュータでは使用できません。

Windows NT 3.51 で Intergraph G91 ディスプレイ アダプタを使用するには、Intergraph コンピュータに付属の G91 ディスプレイ ドライバを実行してください (Windows NT 3.51 Intergraph G91 ドライバは、バージョン 3.51 では正常に動作します)。

Windows NT 3.51 で Intergraph G91 ディスプレイ アダプタを使用するには

1. Windows NT 3.51 のセットアップ プロセスの実行中、[ディスプレイの設定] ダイアログボックスで [キャンセル] をクリックします。
2. 組み込みが完了した後、Windows NT 3.51 Intergraph G91 ドライバをロードします。

Lap-Link V

パラレル ポート間のファイル転送およびシリアル ポート間のファイル転送はサポートされていません。ファイルの転送はモデムを使用して行います。

LHX Attack Chopper

Windows NT では、アプリケーションから直接コンピュータのタイマを調整することはできません。このような場合、サウンドの実行速度が遅くなります。

Lotus 1-2-3 version 2.4 以上

Lotus 1-2-3 では、その構成によってパラレル モードまたは LPT モードのいずれかで印刷することができます。Windows NT で最適な印刷を行うには、このアプリケーションを LPT モードに構成してください。

Lotus Agenda

Agenda は forcedos コマンドを使用して起動します。詳細については、Windows NT ヘルプのコマンド リファレンスの forcedos の項目を参照してください。

Lotus AmiPro 3.1 での印刷

Lotus AmiPro version 3.1 は、印刷の際に、[Print Setup] の設定を認識しません。[Duplex in File] など、いずれかの印刷属性を変更した場合は、[Print Setup] は無効になります。設定を有効にするには、プリント マネージャでデフォルトの文書情報を設定しなければなりません。

デフォルトの文書情報を設定するには

1. プリント マネージャを起動します。
2. デフォルトの文書情報を設定したいプリンタを選択します。
3. [プリンタ] メニューから [プリンタ情報] を選択します。
4. [詳細] を選択します。
5. [標準設定] を選択します。
6. 文書のさまざまな情報を設定します。詳細な文書情報を設定するには、[オプション] を選択して情報を選択します。
7. [OK] をクリックします。

Lotus Notes

NetWare Notes サーバーを使用している場合は、Lotus Notes は実行できません。

Lotus Notes は、クイック キャリア検出通知機能に依存して動作します。Windows NT ではモデム割り込みをシミュレーションで処理するため、低い優先順位で実行すると、十分な処理

速度が得られない場合があります。修正版は CompuServe で入手することができます。

Lotus Notes/FX リンクは、Word for Windows NT (32 ビット) ではサポートされていません。Notes/FX リンクは、Windows NT 3.51 の Word for Windows 6.0c (16 ビット) でサポートされています。

Lotus Notes メールが到着しても、ピープ音は鳴らされません。Notes は、ドキュメント化されていない Windows 3.0 呼び出しを使ってメールのピープ音を鳴らします。ドキュメント化されていない呼び出しは、Windows NT 3.51 ではサポートされません。

Lotus Notes をマルチプロトコル Windows NT 上の NetBIOS を介して使用する場合

NetBIOS を使用して Lotus Notes サーバーと通信する Notes クライアントは、通信が確立できるように正しく構成しておかなければなりません。サーバーとクライアントは、同じネットワーク プロトコルを使用するように構成しなければなりません。デフォルトでは、Notes クライアントは最初のプロトコル (たとえば、NetBIOS LANA 番号 0) を使用します。これが Notes サーバーの構成と一致しない場合は、コントロール パネルの [ネットワーク] を使用して、LANA0 の正しいプロトコルを構成しなければなりません。NetBIOS を構成します。また、NOTES.INI ファイルを変更して適切な LANA 番号を使用することもできます。Notes が LANA 番号 1 を介して通信するようにする構成を以下に示します。

```
LAN1=NETBIOS, 1, 15, 2000  
Ports=LAN1
```

Lotus Organizer

Lotus Organizer 1.1 では、アラーム サウンドは鳴らされません。Organizer は、ドキュメント化されていない Windows 3.0 呼び出しを使ってアラーム サウンドを鳴らします。ドキュメント化されていない呼び出しは、Windows NT 3.51 ではサポートされません。

Organizer 2.0 は、内蔵のアラーム サウンドのほかに、.WAV ファイルもサポートします。.WAV ファイルは、アラームが発生すると、正常に再生されます。

Lotus ScreenCam

Lotus ScreenCam は、Windows NT 3.51 ではサポートされていません。

Lotus SmartSuite

Lotus SmartSuite を組み込むときに、SmartSuite インストール プログラムがシステム ハードウェアに直接アクセスしようとしたという警告ダイアログが表示される場合があります。システム ハードウェアへの直接アクセスは、Windows NT ではサポートされません。[無視] ボタンを選択すると、組み込みが続行されます。

Micrografx Windows Draw 3.0

バージョン 3.0 (720K) リリース ディスクでは、組み込みに失敗する場合があります。Micrografx Draw から要素をコピーまたは切り取りすることはできません。

Microsoft C 7.00

CodeView for Windows (CVW.EXE) はサポートされていません。16 ビットの Windows ベースのアプリケーションをデバッグするには、Windows NT のデバッガ WINDBG.EXE を使用してください。文字モードの CodeView はサポートされています。

Microsoft Dinosaurs

Microsoft Dinosaurs は、Windows NT を実行するコンピュータへの組み込み時に、Macromind Multimedia Player (MMP) を組み込みません。Microsoft Dinosaurs CD の \XFILES\DRIVERS ディレクトリから MMCIMMP.DRV および MMP.DLL を %SystemRoot%\SYSTEM ディレクトリにコピーしなければなりません。これらのファイルをコピーした後、次のエントリをレジストリに追加しなければなりません。

REG_SZ 値 MMMovie=MCIMMP.DRV を次のキーに追加します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\  
Windows NT\CurrentVersion\MCI
```

REG_SZ 値 mmm=MMMOVIE.DRV を次のキーに追加します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\  
Windows NT\CurrentVersion\MCI Extensions
```

Microsoft Encarta 1994

RISC ベースの Windows NT 3.51 コンピュータを使用している場合は、Encarta をハードディスクにセットアップして実行し、2 つのファイルを置き換えます。ENC94IMG.DLL および POEMWINC.DLL を、Encarta CD の \ENCARTA\NT ディレクトリから Encarta を組み込んだディレクトリ (デフォルトでは C:\ENCARTA) のルート ディレクトリにコピーします。

Microsoft Encarta 95

インストールできません。フォント ファイルの属性の変更時に、エラー ポップアップが表示されます。

これは、通常のユーザーとしてログオンしていて、Windows NT 3.51 が NTFS フォーマットのパーティションに組み込まれているときに起こります。いったんログオフしてから Administrator としてもう一度ログオンし、インストール プログラムを再実行してください。

RISC マシン (Alpha、MIPS または PowerPC) 上に組み込まれている場合は、Encarta を実行しようとするとき「Illegal Instruction」というポップアップが表示されます。

Encarta に付属のリリース ノートを読み、その指示に従って手動で Windows NT 3.51 パーティションの POEMWINC.DLL をコピーしてください。

Microsoft Excel version 5.0

Windows NT はコンピュータ ベースのチュートリアル (CBT) ファイルをサポートしていません。このヘルプ ファイルは、CBT ファイルを使用して Examples、Demos、および Quick Previews を表示します。CBT ファイルを使用するヘルプの項を表示すると、「You cannot run the CBT with this operating system or CBT directory not found.」というポップアップ ボックスが表示されます。

MS Query を呼び出すデータベースは RISC ベースのコンピュータ上では動作しない場合があります。これは、MS Query が i386 以上のコンピュータでのみ動作するためです。

圧縮 NTFS ドライブ上での Microsoft Excel 5.0 ファイルの表示

Windows NT 3.51 では、NTFS ドライブを圧縮することができます。Microsoft Excel 5.0 for Windows NT で [ファイルを開く] ダイアログ ボックスを使って圧縮されている NTFS ドライブ上のファイルを表示させようとしても、既存のファイルは表示されません。これは、ファイルを開いたり読み取ったりするためのマクロ コマンドでも同様です。このような状況は、x86 プラットフォーム上の Excel 5.0 for Windows NT の 32 ビット バージョンでだけ発生します。Microsoft Excel の DEC、Alpha、MIPS、PowerPC、および 16 ビット バージョンには影響はありません。

Microsoft Excel 5.0 for Windows NT は、圧縮されていない NTFS または FAT ドライブからは問題なく読み取ることができます。このバグは、Microsoft Excel for Windows NT の将来のリリースでは修正されているはずですが。

圧縮ドライブ上の Microsoft Excel for Windows NT スプレッドシート ファイルは、2 つの方法で表示させることができます。

* Microsoft Excel for Windows NT の [ファイルを開く] ダイアログ ボックスの [ファイル名] ボックスに開きたいファイルの名前を入力し、Enter キーを押します。

または

* ファイル マネージャで、開きたいスプレッドシート ファイルをダブルクリックします。

Microsoft Entertainment Pack、Idlewild

Idlewild スクリーン セーバーを Windows NT で使用するには、このスクリーン セーバーへのフルパスをシステム パスに追加しなければなりません。そうしないと、システムはこのスクリーン セーバーを見つけることができないので、起動されても画面はブランクの状態になります。AUTOEXEC.BAT ファイルにこのスクリーン セーバーのディレクトリへのパスを追加するか、あるいは、コントロール パネルの [システム] を使用してこのパスを含む環境変数を追加します。

Microsoft Magic School Bus Explores The Solar System

音声は再生されますが、ビデオは再生されず、画面はブランクの状態になることがあります。コントロール パネルの [ドライバ] から [(MCI) Microsoft Video for Windows] を選択し、[設定] をクリックします。[詳細] をクリックして、[16 ビットとの互換性] チェック ボックスをオンにします。それからアプリケーションを再起動してください。

Microsoft PowerPoint

PowerPoint に含まれる Genigraphics ドライバはサポートされていません。

ビデオ クリップや MIDI シーケンスが埋めこまれた PowerPoint 4 プレゼンテーション

スライド ショウを実行しても、埋めこまれているメディア クリップが再生されないことがあります。

システムの %SystemRoot% ディレクトリ (一般的には \WINNT35) にある POWERPNT.INI ファイルに、次の行を追加してください。

[OLE Play Options] セクションの下に、以下の行を追加します。

```
AVIFile=Movie,1,1  
MIDFile=Sound,1,2
```

Microsoft Word for Windows 6.0a

Windows NT はコンピュータ ベースのチュートリアル (CBT) ファイルをサポートしていません。ヘルプ ファイルは、CBT ファイルを使用して Examples、Demos、および Quick Previews を表示します。CBT ファイルを使用するヘルプの項を表示すると、「You cannot run the CBT with this operating system or CBT directory not found.」というポップアップ ボックスが表示されます。

Microsoft Word version 5.5

外国語のキーボードで Word を使用する場合は、forcedos コマンドを使って起動します。これによって、2 つのキーを使ってアクセント記号付きの文字を入力できるようになります。詳細については、Windows NT ヘルプのコマンド リファレンスの forcedos の項目を参照してください。

Microsoft Works 3.0

Windows NT はコンピュータ ベースのチュートリアル (CBT) ファイルをサポートしていません。ヘルプ ファイルは、CBT ファイルを使用して Examples、Demos、および Quick Previews を表示します。CBT ファイルを使用するヘルプの項を表示すると、「You cannot run the CBT with this operating system or CBT directory not found.」というポップアップ ボックスが表示されます。

Multiplan 4.2 for DOS

MP.PIF ファイルは、forcedos がサポートしていない Windows 2.11 形式です。この問題を解決するには、Windows NT の PIF エディタを使用して MP.PIF を開いて保存します。これによって、適切な形式で保存されます。

Norton Utilities 6.01

システム ハードウェアに直接アクセスするユーティリティはサポートされていません。このようなユーティリティには、ディスク キャッシュ、ウイルス チェック、エラー診断などがあり

ます。

ORACLE DBMS for DOS

Windows NT クライアントは、Oracle サーバー上のデータにアクセスできますが、Oracle for MS-DOS は VCPI メモリ管理を使用するため、このアプリケーションはサポートされていません。

OzCIS

OzCIS でデータの転送時に文字が失われる場合は、ボー レートを低くして実行してみてください。

PackRat 5.011 for Windows

RISC ベースのコンピュータでは、PackRat のセットアップ プログラムはパスを変更しようとしたときに不正な指示を表示します。PackRat のセットアップ プログラムによって、パスに PackRat ディレクトリを追加するかどうかをたずねられたときには、[No] を選択します。組み込みが終了した後、手動でこのディレクトリをパスに追加してください。

pcANYWHERE III

pcANYWHERE は、独自の PIF および独自のスタートアップ ファイルを使用して起動します。独自の構成ファイルに必ず dosonly コマンドが含まれるようにします。詳細については、このファイルの「MS-DOS ベースのリモート制御アプリケーションの実行」を参照してください。

Procomm 2.0 のセットアップ

Procomm 2.0 for Windows のセットアップを行っても、プログラム マネージャにアイコンが正しく追加されません。手動でプログラム マネージャに Procomm のアイコンを追加するか、コマンド ラインからアプリケーションを起動してください。

Quantum Gate

Quantum Gate を組み込むときに、使用するハードウェアのオーディオ ドライバを選択するよう求められますが、実際のドライバを選択せずに [Other] を選択してください。Quantum Gate は、Windows API を使用してオーディオ ハードウェアにアクセスするのではなく、直接ハードウェアにアドレス指定しようとしています。

Quattro Pro for Windows 1.0

複数の部数の印刷はサポートされていません。

[Printer Setup] ダイアログ ボックスで [Redirect To File] を選択すると、プリンタへの出力は、[Browse] ボタンを使用してほかのディレクトリを選んでも、%SystemRoot%\system32 ディレクトリのファイルにリダイレクトされます。このファイルは、警告メッセージを表示せずに、同じ名前の既存のファイルを上書きします。

[Browse] ボタンを使用して選択したディレクトリ、またはデフォルトの Quattro Pro ディレクトリにも、同じ名前のファイルが作成されます。しかし、このファイルには、プリンタ情報は含まれておらず、サイズは 0 バイトです。

Quattro Pro は、[Printer Setup] ダイアログ ボックスに使用できなくなったプリンタを表示することがあります。使用できないプリンタで印刷しようとした場合、一般保護違反が発生することがあります。プリンタが使用できるかどうかを確認するには、プリント マネージャを開き、プリンタを選択してウィンドウの一番下にあるステータス バーを見てください。

Quattro Pro 6.0

Quattro Pro 6.0 で開いたファイルに埋め込まれている OLE オブジェクトの中には、予測どおりの動作をしないものがあります。Quattro Pro 6.01 では、OLE インプリメンテーションが向上しています。Quattro Pro のアップグレード情報については、Novell にお問い合わせください。

Quattro Pro は、[Printer Setup] ダイアログ ボックスに使用できなくなったプリンタを表示することがあります。使用できないプリンタで印刷しようとした場合、一般保護違反が発生することがあります。プリンタが使用できるかどうかを確認するには、プリント マネージャを開き、プリンタを選択してウィンドウの一番下にあるステータス バーを見てください。

Quicken 4.0

Quicken version 4.0 の通信部分は、Windows NT 3.51 が Intel ベースのコンピュータに組み込まれている場合にだけ Windows NT 3.51 で実行可能です。x86 プラットフォーム上で Quicken を実行するには、Quicken の通信部分の指示に従ってください。

Quicken 4.0 の通信部分は、Windows NT 3.51 を実行している場合は、x86 以外のプラットフォーム上では実行できません。ただし、Quicken 4.0 の他の部分は正常に実行されます。

Rumba

Rumba の実行方法については、『セットアップ ガイド』の第 2 章の「Windows ベースのメインフレーム接続ソフトウェアの実行」を参照してください。

7th Guest

このアプリケーションは、Windows NT では実行することができません。

SimAnt

Maxis SimAnt は、コンピュータのスピーカーでサウンドが有効になっている場合、マウスを動かすと実行に失敗することがあります。この問題を回避するには、サウンドを無効にしてください。SIMANT.CFG を編集して Sound Mode の設定を 0 に変更するか、あるいは、アプリケーションの組み込んで Sound Driver の設定を None に変更します。

Smartcom Windows Communication Software 1.0A

Windows NT の通信ドライバ COMM.DRV を使用するには、Smartcom 独自のユーティリティプログラムを使用して Smartcom を構成します。

Software Toolworks Multimedia Encyclopedia

フルスクリーン ビデオは再生されません。画面はブランクの状態になり、音声も再生されません。ビデオの再生にはフルスクリーン モードは選択しないで、ノーマル モードで実行してください。

SQLWindows 4.0/4.1 for Windows

最初に組み込む場合でも、組み込みの最後で必ず [Replace Existing Program Group] を選びます。新しいプログラム グループの作成を選択すると、使用した名前は無効であると見なされます。

[Report Windows] を使用して作成または変更されたレポート テンプレートは、保存することができません。アプリケーションは、一時ファイルを作成できないというメッセージを表示します。この問題は、SQLWindows 5.0 で修正されています。

SuperPrint 2.2

このアプリケーションは、互換性のない 16 ビット デバイス ドライバに依存しているため、サポートされていません。

US Atlas 3.1.0, The Software Toolworks

印刷するプリンタのポート名が 12 文字を超えていると、このアプリケーションは印刷に失敗することがあります。この問題を回避するには、印刷する前に、プリント マネージャを使用して [プリンタ情報] ダイアログ ボックスの [印刷先] ボックスに示されている印刷先のプリンタの名前が 12 文字以下であることを確認します。

Ventura Publisher for DOS

RISC ベースのコンピュータでは、複数の文書を開こうとしたとき、または数式を入力したときは、このアプリケーションは失敗する場合があります。

Delrina WinFax Pro 2.0

デバイス ドライバがまだ使用できないため、このアプリケーションはサポートされていません。

WordPerfect Windows 6.0a

チュートリアルはサポートされていません。